

事例集
自然と共に生きる
にぎわいの里づくりのために

地球のいのち、つないでいくう

生物多様性



環境省

発行:平成23年3月 環境省 自然環境局
〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2
<http://www.env.go.jp/nature/satoyama/top.html>

はじめよう! 「自然と共に生きるにぎわいの里づくり」

わが国では、長年にわたる人と自然のかかわりの歴史を通じて、集落を中心に資源が循環し、持続的に自然の恵みを享受する空間が形成され維持されてきました。

それが里地里山です。

人々の営みがつくり出した里地里山は、農林業による生産や人々の生活の場としてわが国を支えてきましたが、今日では、多様な生物の生息・生育環境として、また、地域特有の良好な景観や伝統文化の基盤として、さらには子供たちをはじめ自然離れしてしまった都市住民の自然体験の場としても重要な意義や機能を發揮しています。

しかし、近年の社会経済の変化に伴い里地里山で暮らす人々の減少や高齢化の進行などにより、これまで様々な場所であたり前のように行われてきた農林家や地域の方々による農林業や暮らしの営みも減退してきていることから、ここに暮らす方々だけでは、里地里山特有の変化に富んだモザイクのような自然環境やそこに根ざした恵み、豊かな生物多様性を維持管理していくことが困難になっています。

国土のおよそ4割を占める里地里山の恵みを未来に引き継いでいくためには、都市に住む人々や民間団体、企業などあらゆる主体が参加する国民的運動として里地里山の保全活用を展開していくことが重要となっています。このため、環境省は平成20年から「里地里山保全・活用検討会議」を設置し、専門家の協力を得ながら、生物多様性の保全をはじめ多様な観点から里地里山の保全活用の取組の現状を把握し、その分析を通じてすぐれた手法や仕組みの事例を紹介することにより、各地の取組の促進を図っています。

この事例集は、平成22年9月に策定した「里地里山保全活用行動計画～自然と共に生きるにぎわいの里づくり～」を基本に、広く皆さんに里地里山の保全活用の意義について知っていただき、多様な主体による保全活用の取組が全国各地で国民的運動として展開されることを目的として、全国の特徴的な取組事例を紹介し、里地里山の保全活用に取り組もうと思っている皆さんの実情や関心に合ったヒントを見つけていただけるように作成したものです。

里地里山は、私たちが共有する原風景であるとともに、多様な主体による新たな活用の可能性に満ちた、未来に伝えるべきかけがえのない財産です。

あなたも、身近なところから、「自然と共に生きるにぎわいの里づくり」に参加してみませんか。

「自然と共に生きるにぎわいの里づくりのために」(本冊子)

第1章

事例検索と詳細情報(12事例)：4~41頁

全国各地で里地里山の保全活用に取り組もうとする方々が、各地域の関心に応じた取組の「目的・進め方」(6分類)を出発点として、その実現に向けた「手法」(12分類)から、役立ちそうな取組事例を検索し、詳細情報(12事例)を見ることができるようになっています。

これらの12事例は、これまでの環境省の事業によって「特徴的な取組」として抽出し調査を行った144事例の中から、手法(12分類)をよく表している事例を1つずつ選んだものです。

1事例当たり3頁で詳細情報を紹介しており、また、それぞれの末尾には、同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表を示しています。



第2章

事例の分布図及び一覧表：42~49頁

特徴的な取組事例(144事例)について、全国の分布図と、地方別分布図・一覧表を示しています。



第3章

ホームページ「里なび」の紹介：50~51頁

ホームページ「里なび」と、その中に収録されている「里地里山保全活用データベース」について説明しています。

ホームページ「里なび」の掲載方法と利用方法

里地里山保全活用データベース



ホームページ「里なび」

<http://www.satonavi.go.jp/>

「事例データベース」では、全ての特徴的な取組事例(144事例)の詳細情報を見ることができます。



第1章 事例検索と詳細情報(12事例)

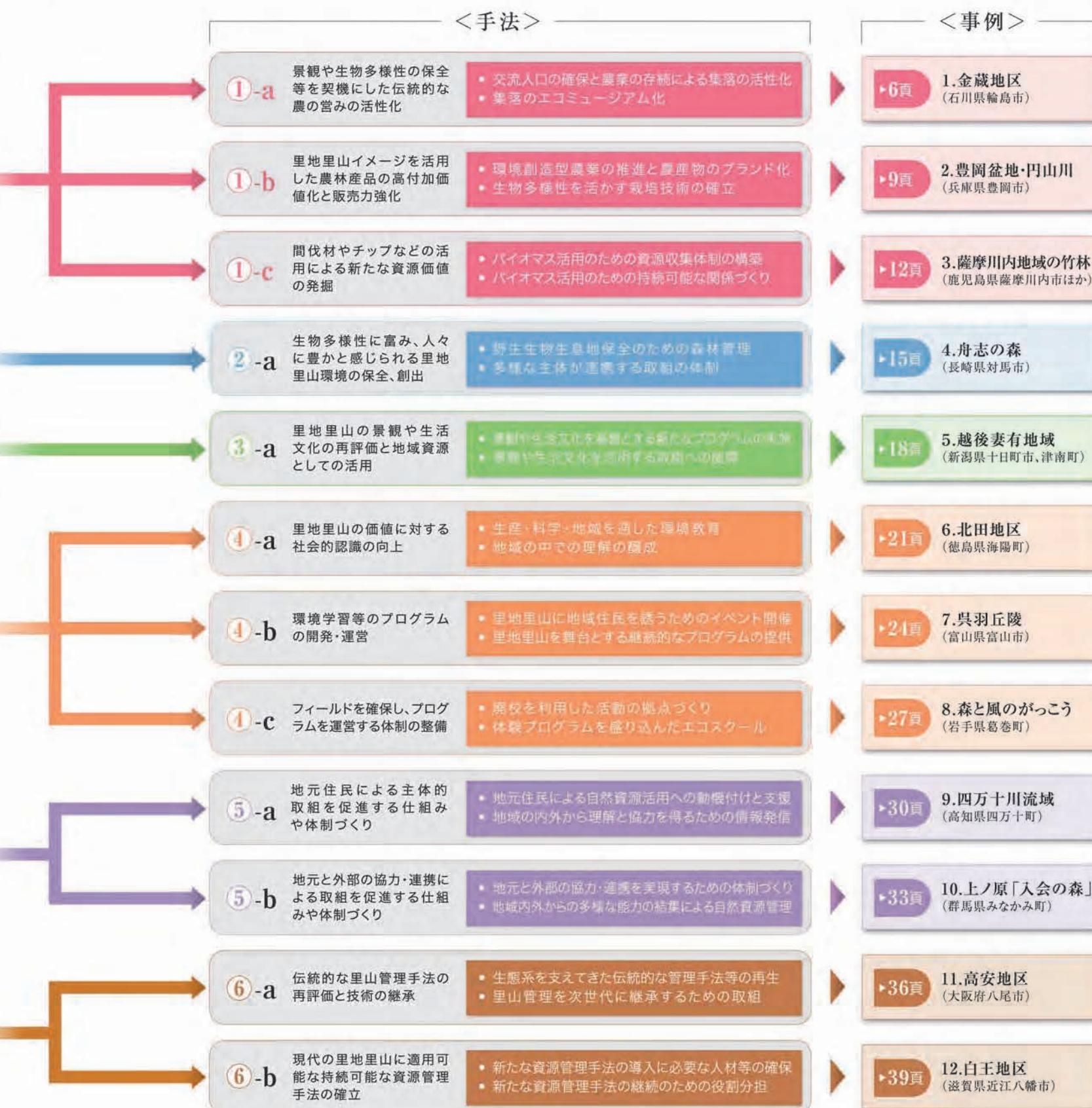
事例検索シート

下記の「目的」・「進め方」の中から、皆様が関心のある項目を選び、そこから右頁の「手法」を経由して、参考となりそうな事例を検索してください。



■ 検索の例 生産したお米を、地域固有の生き物をシンボルとして販売したい場合は…

- 左頁の<目的>から「地域の特徴的な生き物をシンボルとして農林業を活性化したい」を選択します。
- 右頁に移り、<手法>から「①-b里地里山イメージを活用した農林產品の高付加価値化と販売力強化」を選択します。
- すると、<事例>は「2.豊岡盆地・円山川(兵庫県豊岡市)」となります。



取組の手法①-a: 景観や生物多様性の保全等を契機にした伝統的な農の営みの活性化

金蔵地区(石川県輪島市)

CASE
No.01

石川県 輪島市



photo by Wajima city

基本情報

所在地	石川県輪島市町野町金蔵
主な取組内容	集落全体で棚田営農し、歴史・文化活用の交流や特産品づくり
実施体制	中心的主体 NPO法人 やすらぎの里 金蔵学校 連携主体等 金沢大学、石川県、市民ボランティア
生態系タイプ分類	コナラ林(西日本)
地域区分	中山間地
環境タイプ	二次林、水田、畑、小川・水路、ため池、社寺林、人工林

取組内容

金蔵では集落内にある5つのお寺の檀家の繋がりにより、外部との交流を持ち続けることで繁栄してきた。現在は人口が減少し過疎化が深刻になっているが、地域外の都市住民等を呼び込み、交流人口を確保することで地域活性化を図っている。具体的には、独特の歴史・文化や伝説が残っていることを活かした集落のエコミュージアム化や、イベントの開催等を行っている。また、お寺の境内にカフェをオープンし、棚田では減農薬の付加価値米や酒米を栽培するなど、特産品も開発し、来訪者の増加を目指しつつ、生産基盤であり集落景観の主要要素でもある棚田や畑の存続を図っている。大学とも連携し、学術的な生物調査等も実施されている。



活動の様子

取組の特徴

POINT
1

交流人口の確保と農業の存続による集落の活性化

過疎化が進む集落へ来訪者を呼び寄せ、生産基盤である棚田の保全活用も図る

金蔵集落には五ヶ寺と呼ばれる5つのお寺がある。それぞれのお寺の檀家には金蔵集落以外の住民もいるため、常に外部の住民との交流が保たれており、この交流の仕組みが金蔵集落の繁栄にも繋がっていた。過疎化が進む現在にその考え方を取り入れ、様々な取り組みを通して都市部からの来訪者獲得を試みている。

金蔵地区の主な取組



集落の散策マップ(金蔵散策絵図)



金蔵万燈会



境内のカフェ

POINT
2

集落のエコミュージアム化

地域の文化や歴史を活かし、来訪者の受け入れ体制をつくる“やすらぎの里創り”

金蔵地区はその歴史が深く、室町時代の趣を残す集落が特徴的である。また、集落には金蔵のシンボルである五ヶ寺を中心に様々な歴史や伝説が現代にも伝承されている。このような特徴を活かしながら、外部からの来訪者の受け入れ態勢を整える「やすらぎの里創り」に取り組んできた。主な取組内容は右表の通りである。



五ヶ寺の一つ、金蔵寺の解説板

やすらぎの里創りの主な取組内容とポイント

取組	ポイント
● <やすらぎの里創り構想の作成> 集落の整備方針をまとめ、活動メンバーの中での確認作業を実施	● 活動メンバーが知恵を出し合って作成し、どのような方針で整備するかということを確認してから実際の整備を開始した。
● <ツツジ千本運動・サクラ千本運動> 集落内の散策路にツツジやサクラを植栽し、景観の向上を図った	● 元からある景観に加え、外部へアピールできるような景観要素を創出した。
● <標柱・解説板の設置> 集落内の現在地を示す標柱と、それぞれの見所について紹介した解説版を設置	● 道がわかりづらい集落であるため、迷いにくいように整備 ● 景観や資源を見るだけではなく、知ることができるよう整備
● <金蔵散策絵図の作成> モデルコースとその所要時間、金蔵の見所やそれにまつわる伝説、標柱の位置、駐車場やトイレの位置などを記載した地図を作成	● 複数のモデルコースと所要時間を掲載し、来訪者のニーズにあつた散策の仕方を提供 ● 標柱の位置を地図上に記載し、道に迷わないような仕組みにしている ● 集落の歴史や伝説を見所とともに記載することで、金蔵の独特の雰囲気を体感しやすくなっている
● <オープンカフェ「木の音」> 五ヶ寺のひとつである慶願寺の境内にカフェをオープン	● 来訪者の休息場所としての役割を果たす ● 金蔵のシンボルである五ヶ寺の雰囲気を体感することができる ● 金蔵にまつわるメニューを提供 ● 地場農産物を使用することで、金蔵の農産物需要増加にも貢献

取組の成果

- 人口180人ほどの集落であるが、年間8,000人の観光客が訪れるようになり、交流人口は以前の何倍にも増加している。
- 面積は減少しているものの水田耕作が存続され、古くからの農山村の土地利用・生活が継承されている。
- 金蔵の歴史・文化を物語るものとして、寺院などの建造物や、伝説などの無形の遺産が今日まで引き継がれている。
- 長年の水田耕作を通じて、水辺の豊かな生物相が今日まで引き継がれている。
- 様々な分野の研究フィールドとなり、多数の研究者が調査・研究に訪れている。
- 金蔵万燈会は多数の観光客が集まる定期イベントとして定着した。
- 平成16年には「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に、平成21年には「ほんの里100選」に選定された。



上:金蔵地区的風景
下:五ヶ寺の一つである正願寺



取組のキーパーソン・キーセクション

NPO法人 やすらぎの里 金蔵学校 理事長 石崎英純さん

金蔵集落の過疎化が進み、地域のよりどころであった小学校が廃校になった後に、再び金蔵の集落を元気にし、独特の歴史や文化を後世に伝承しようと「金蔵学校」が開校された。石崎さんは開校当初から金蔵学校の代表を務めており、他の活動メンバーとともに様々なイベントの企画等を行い、元気な金蔵の復活を目指している。

コンタクト先:NPO法人 やすらぎの里 金蔵学校 〒928-0236 石川県輪島市町野町金蔵ノ部38番地
TEL 0768-32-1562 E-mail gakkou@po5.nsk.ne.jp URL <http://po5.nsk.ne.jp/~gakkou/activities.html>

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
ブナ北限の里「黒松内」	14	北海道	黒松内町	農村の生業継続へ、笹地でのブナ林再生などブナ北限の里づくり
石部の棚田	61	静岡県	松崎町	地元主導で棚田復元し、企業、大学などに参加の輪が広がる
河和田東部	65	福井県	鯖江市	集落連携で行う鳥獣害対策などにより農地や山林を保全
下栗の里	67	長野県	飯田市	高標高、急峻な山肌、伝統文化や農林業を継承し、積極的に情報発信
祝島・石垣の棚田	118	山口県	上関町	島の特性を活かした第一次産業の継承・発展、「放牧養豚」の取組も
梼原	126	高知県	梼原町	持続可能な森林利用を目指してFSC認証を取得し、原木・加工・住宅までの一貫システムを構築
江里山の棚田	131	佐賀県	小城市	地の利活かし減農薬で米作り、棚田景観で都市との交流も

取組の手法①-b: 里地里山イメージを活用した農林産品の高付加価値化と販売力強化

豊岡盆地・円山川(兵庫県豊岡市)

CASE
No.02



基本情報

所在地	兵庫県豊岡市 円山川流域
主な取組内容	おいしく安全なお米と生きものを同時に育む「コウノトリ育む農法」を拡大、推進
実施体制	中心的主体 地元農家(農業組合等) 連携主体等 豊岡市、豊岡農業改良普及センター(兵庫県)、JAたじま、大学等研究機関、 コウノトリ共生農業推進協議会(「コウノトリの舞」農産物等生産団体認定審査会)、環境ボランティア団体、地元小学校等教育機関
生態系タイプ分類	コナラ林(西日本)
地域区分	都市周辺～中山間地
環境タイプ	二次林、水田、小川・水路

取組内容

兵庫県豊岡市は日本で一度は絶滅したコウノトリの最後の生息地であり、その野生復帰の取組みが進められている。地域が一体となってコウノトリも住めるまちを実現するため、豊岡市は環境と経済の両立を目指す「環境経済戦略」を策定した。その代表的な取組みが、「コウノトリ育む農法」の実践である。

コウノトリは水田を主な採餌場とする大型の肉食鳥類であるため、野外での生息には多様で多量の生きものが生息する水田が不可欠である。そこで、地元農家が専門家や行政等と協力し、生物多様性を活かした農業技術を試行錯誤しながら実践している。また、市は基準を満たした農産物に対し、「コウノトリの舞」の認定をしている。認定された農産物はブランド農産物として消費者から好評を得ている。



水田で生きもの調査をする子どもたち

水田で餌をついばむコウノトリ

取組の特徴

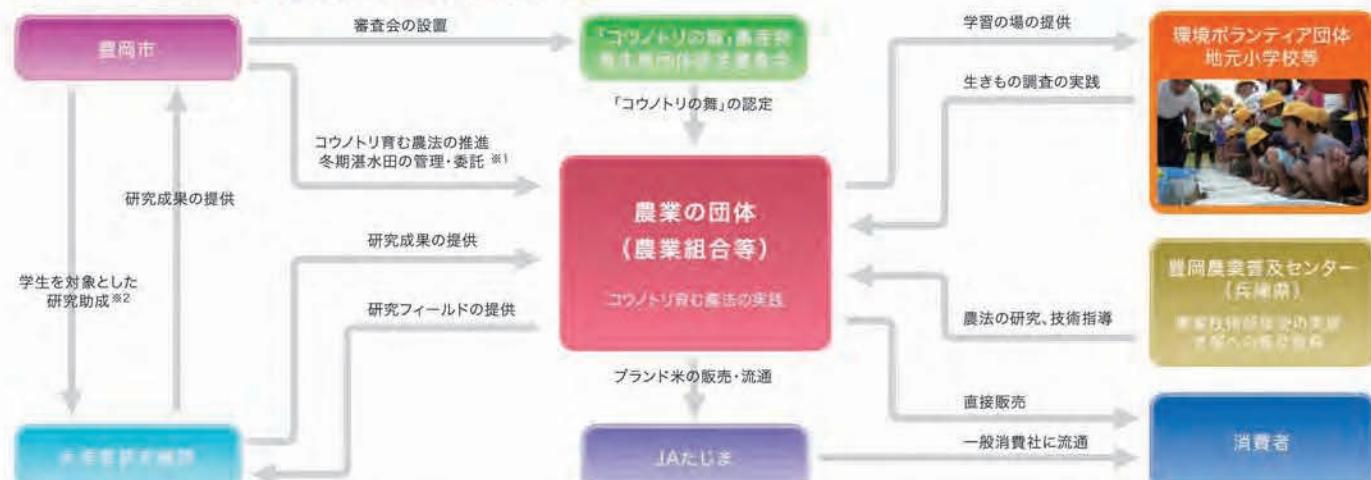
POINT
1

環境創造型農業の推進と農産物のブランド化

多様な主体が協力しながらコウノトリと共生する農業を実践

豊岡市が策定した環境経済戦略の柱の一つに「環境創造型農業の推進」がある。これに基づき、様々な団体が連携しながら、「コウノトリ育む農法」が実践されている。また、豊岡市は学識経験者、生産者、消費者、行政等からなる「コウノトリの舞」農産物等生産団体認定審査会を設置し、団体を対象にして「コウノトリの舞」の認定を行っている。この団体が生産した農産物は「コウノトリの舞」の認定ステッカーを貼って販売され、安全・安心を求める消費者から好評を得ている。

「コウノトリ育む農法」の実践における連携体制の例



POINT
2

生物多様性を活かす栽培技術の確立

生きものの豊かさを稲作に活かす技術を確立し、生きものと共生する農産物を生産

環境に配慮した農業は慣行農法に比べて手間がかかるほか、収量も減少することが予想される。豊岡市では、農業を実践する地元農家が行政やJAのほか、様々な農業技術支援団体と協力し、生物多様性が豊かになることを稲作に活かす「環境創造型稲作」の確立を目指している。その主な内容は下表の通りである。

環境創造型稲作の主な内容

内容	期待される効果	
	生きものに対する効果	稲作に対する効果
無農薬栽培	・農薬を使用しないため、多様な生物が水田内に生息・生育可能になる	・クモ類、トンボ類、カエル類等の天敵となる生きものが生息することにより、害虫の大発生を抑制する ・藻類が繁茂することにより水中への太陽光を遮断し、雑草の発芽を抑制する
米ぬか散布	・イトミミズや微生物が増殖する ・除草剤を使用せずにすむため、多様な生きものが水田内に生息・生育可能になる	・肥料としてはたらく ・トロトロ層が形成されることにより雑草種子が埋没し、発芽が抑制される
深水管理	・多様な水生生物の生息・生育場となる	・雑草(主にヒエ類)の発芽・成長を抑制する
冬期/早期湛水	・イトミミズが増殖する ・カエル類の産卵場となる	・水生生物の越冬場となる ・渡り鳥の休息の場となる ・イトミミズのフンで形成されたトロトロ層に雑草種子が埋没し、発芽が抑制される ・水鳥が雑草の球根類を食べる
中干し延期	・オタマジャクシの変態やヤゴの羽化を助ける	・害虫を捕食するカエル類、トンボ類を保全することにより、害虫の大発生を抑制する
ピオトープ水田(生きもの逃げ場)の設置	・非湛水期の水生生物の生息・生育場となる	・水田内の生物多様性の向上
水田魚道の設置	・水域間の水生生物(主に魚類)の移動経路を確保する	・水田内の生物多様性の向上

取組の成果

- ・コウノトリ育む農法で栽培された米は、ブランド米として慣行栽培米の約1.5~2倍の価格で売れるようになり、農家の収益力が向上した。
- ・コウノトリ育む農法の実践農家が増加し、コウノトリも住める地域が実現に近づいている。
- ・生きものとお米を同時に育む稲作技術が、生物多様性を育む農業技術の先進事例として注目されている。視察研修等で全国各地から農家が訪れるようになつた。
- ・環境創造型の農業の実践が収入の向上にもつながり、環境と経済が両立した地域づくりが実現に近づいている。



生きもの調査の様子



水田に増えた生きものたち



水田がつなぐ市民共働も(ピオトープづくり)



取組のキーパーソン・キーセクション

豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

豊岡市では、コウノトリをシンボルとしたまちづくりを進めため「コウノトリ共生課」が設置されており、農林水産課、農業共済課などと共にコウノトリ共生部を組織し、農の活性化を図っている。また、同課を中心に行なわれた「豊岡市環境経済戦略」に基づく取組みが、環境行動と経済活動の共鳴を生み出し、活動の持続可能性を生み出しつつある。

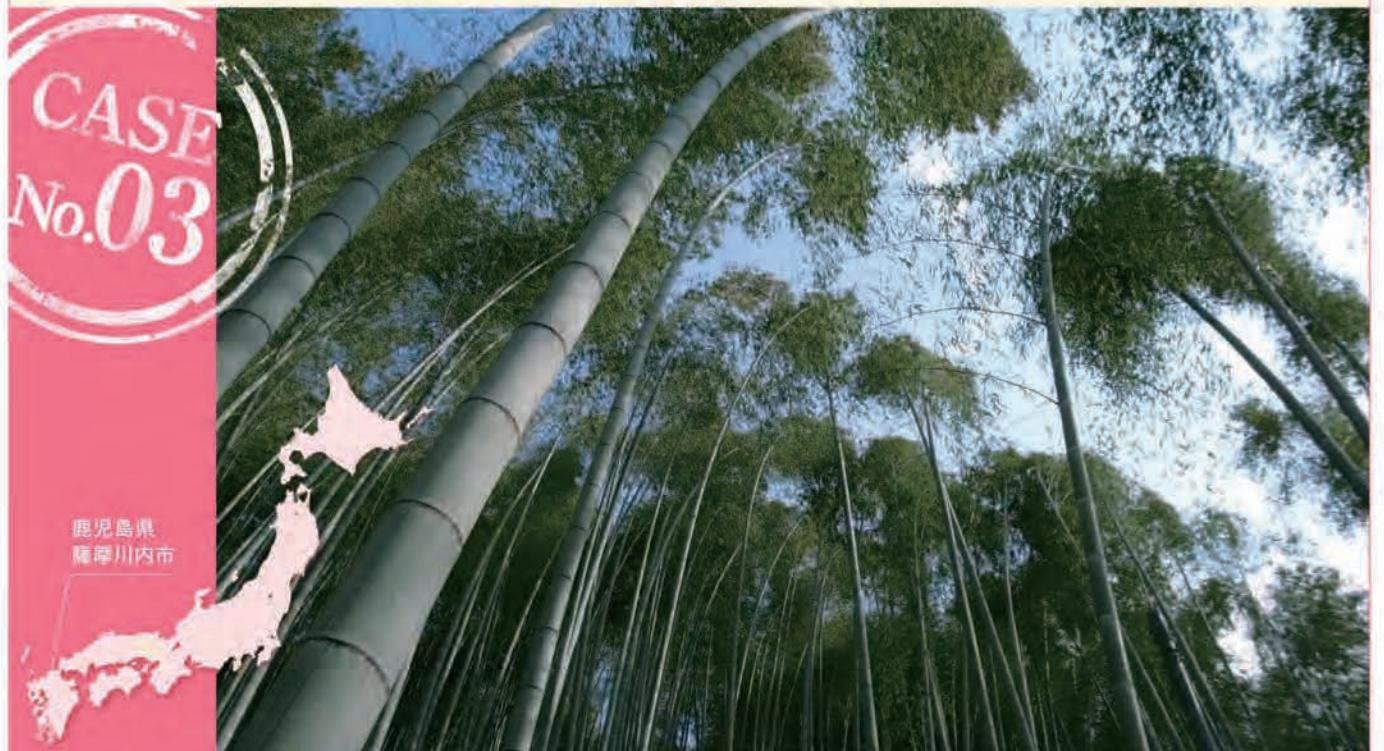
コンタクト先：豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課
〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2番4号 TEL 0796-21-9017
E-mail kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp
URL <http://www.city.toyooka.lg.jp/> (豊岡市役所)

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
神子原地区	62	石川県	羽咋市	農家出資の地産地消企業などで活性化を図り、定住促進
古田地区	76	三重県	いなべ市	休耕田の再生・和菓子生産を通じた農村環境保全と文化の伝承
国府町上地地区	105	鳥取県	鳥取市	棚田用水路保全、酒米づくりに定期的にボランティアが参加し、交流
北庄の棚田	111	岡山県	久米南町	伝統的水利技術利用の棚田の米をブランド化し、オーナーにも販売
馬路村	125	高知県	馬路村	特産品であるゆずを活用して特産品を開発し、村そのものをブランド化

取組の手法①-c：間伐材やチップなどの活用による新たな資源価値の発掘

薩摩川内地域の竹林(鹿児島県薩摩川内市ほか)



基本情報

所在地	鹿児島県薩摩川内市ほか
主な取組内容	筍農家、竹チップ工場、製紙工場など竹を軸にした産業連携を形成
実施体制	中心的主体 中越パルプ工業(株) 連携主体等 鹿児島県内各地のチップ工場(10ヶ所)、筍生産農家等の竹林所有者、竹林整備に携わる地方自治体・NPO・組合等
生態系タイプ分類	シイ・カシ萌芽林
地域区分	中山間地
環境タイプ	二次林、竹林

取組内容

鹿児島県の竹林面積は約16千haであり、全国47都道府県の中で最大の面積を誇る。かつて竹は日用道具の材料や食用(筍)として広く利用されていたが、石油製品等の普及や安価な中国産筍の輸入拡大によって利用量が激減したことにより、放置竹林が増加し、生物多様性の劣化や、景観・土壤保全機能等の生態系サービスの劣化が大きな問題となっている。

薩摩川内地域に立地する中越パルプ工業(株)川内工場は、放置竹林の対策に苦慮していた鹿児島県からの相談や、地元筍農家からの伐採竹を有効利用したいとの要望に応え、平成10年に竹紙の生産に着手した。現在では、中越パルプ(株)による竹紙生産を核として、竹紙の原料を供給する筍農家やチップ工場、竹林整備に取り組む組合やNPO、地方自治体等の連携による「竹の産業連携」が形成され、自然環境保全や地域活性化に大きく貢献している。



竹紙を使用した様々な印刷物

取組の特徴

POINT
1

バイオマス活用のための資源収集体制の構築

生産コストの抑制に向けた地域関係者との連携による竹収集体制の構築

竹の繊維は広葉樹より長く針葉樹より短いため、製紙原料として利用することによって強くしなやかな紙を生産することができる。これまで竹が製紙原料として利用されていなかったのは、内部が空洞であるため原料収集量に対する紙の生産量が小さく、木材を原料とする場合に比べて生産コストが高いことが大きな原因であった。

中越パルプ(株)川内工場は、地域資源を原料とする竹紙の生産コストを抑制するためには、自らの工場における努力に加えて、工場に運び込まれる前の伐採・搬出やチップ化の工程の効率化が重要であると考え、地域の多様な関係者と連携することにより、「チップ工場を核とする効率的な収集体制の構築」や、「筍生産者以外の伐採・搬出者との連携による年間を通じた安定的な原料確保」などに努めてきた。

竹紙ができるまでの流れとコスト抑制の工夫



POINT
2

バイオマス活用のための持続可能な関係づくり

多様な主体の協力を得るための利益と負担の「分かち合い」という考え方

中越パルプ(株)川内工場を中心とする竹紙生産の取組においては、多様な関係者による連携体制を持続させるための考え方として、特定の主体に利益や負担が偏ることがない「分かち合い」が重視されている。このような考え方により、取組に参加する主体が着実に増加している。

「利益と負担の分かち合い」の考え方

関係者	利益	負担
中越パルプ(株)	自然環境保全や地域社会貢献という付加価値を持つ竹紙を生産・販売することができる。	竹紙の生産コストは、従来の木材紙に比べて歩留が低く割高となる。
チップ工場	新たに竹を受け入れることにより、チップ生産設備の稼働率を高めることができる。	竹は内部が空洞であるため生産効率が悪く、材質が堅いため破碎機のナイフ交換頻度が高くなる。
伐採・搬出者 (筍生産農家、作業受託者等)	竹をチップ工場に持ち込むことにより収入を得ることが出来る。	軽トラックで竹をチップ工場に持ち込むという新たな作業が発生する。
地方自治体	公共事業で竹を伐採することにより、自然環境保全や雇用創出等の公益的な効果がある。	公共事業実施のための財政支出や業務負担が必要となる。

取組の成果

- 竹紙の原料として年間10,000t以上の竹が伐採されることにより、林床まで日光が差し込む健全な竹林の面積が増加するとともに、隣接する森林への竹の侵入が抑制され、地域の生物多様性の向上や景観の改善などに大きく貢献している。
- 竹紙の生産を核とした産業連関が生み出されたことにより、筍生産農家の新たな収入源の創出、チップ工場設備の稼働率向上、竹林整備事業に伴う雇用創出などの経済効果が生まれ、地域活性化に貢献している。
- 環境と経済の両面から持続可能性が高い地域資源活用の取組であることが評価され、「第1回いきものにぎわい企業活動コンテスト」で審査員特別賞を受賞した。



取組のキーパーソン・キーセクション

中越パルプ工業株式会社 川内工場

中越パルプ工業(株)は、経営理念の一つとして「環境と社会に貢献する企業に」を掲げており、川内工場においても、このような姿勢から、地域の多様な主体との連携による竹紙の生産に取り組んできた。2010年7月には、竹紙の生産量及びバリエーションの拡大に向けた設備拡充を行ったことから、さらなる需要と顧客の開拓に向けて、竹紙の品質と地域との共生という付加価値をアピールしている。

CONTACT 中越パルプ工業株式会社 川内工場
〒895-8540 鹿児島県薩摩川内市宮内町1-26 TEL 0996-22-2211
URL <http://www.chuetsu-pulp.co.jp/>

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
鎌倉山	35	栃木県	茂木町	堆肥化原料に里山の下刈り、落葉を収集し、土壤回復、減農薬に貢献
赤目の里山	75	三重県	名張市	里山保全グループにより小規模分散型木質バイオマス利用を推進

取組の手法②-a: 生物多様性に富み、人々に豊かと感じられる里地里山環境の保全、創出

舟志の森(長崎県対馬市)

CASE
No.04

長崎県 対馬市



基本情報

所在地	長崎県対馬市舟志地区
主な取組内容	持続可能な林業経営と野生生物の保護を目指し、企業、地元集落が協働
実施体制	舟志の森づくり推進委員会(舟志区、住友大阪セメント㈱、ツシマヤマネコ応援団、対馬市からなる連携組織体)
中心的主体	環境省対馬野生生物保護センター
連携主体等	
生態系タイプ分類	シイ・カシ萌芽林
地域区分	中山間地
環境タイプ	二次林、草地、池沼・湿地、人工林、ため池

取組内容

住友大阪セメント㈱が所有する社有林及び休耕田約16haにおいて、ツシマヤマネコをはじめとする野生生物保護と、持続可能な林業経営を目指して、地元舟志区、住友大阪セメント㈱、ツシマヤマネコ応援団、対馬市の4者が「舟志の森づくり推進委員会」を組織し、森林管理を実施している。

人工林は適正に管理し、生物多様性を向上するとともに木材を生産するために活用し広葉樹二次林部分は開発等をしないで良好な環境を保存する。どんぐりの苗づくりには地元小学校も参加し、子どもたちの環境への理解にも貢献している。休耕田は湿地として機能しているため、多様な生物が生息できるように水位を管理している。



舟志の森に姿を見せたツシマヤマネコ
(2頭同時に撮影されるのは非常に珍しい事です。)

活動に参加する子どもたち

取組の特徴

POINT
1

野生生物生息地保全のための森林管理

ツシマヤマネコの生息地となる森林の再生・創出と地域活性化

舟志の森ではツシマヤマネコの生息地の保全を目指し、土地利用や植生に応じてゾーニングした管理計画を策定している。この管理計画に基づき、地元舟志区が中心となって森林管理されている。廃校を再生し、ここを拠点としたエコツーリズムの展開を検討するなど、保全活動にとどまらず、地域活性化へも動き出している。



植栽地でのソバ栽培

舟志の森における取組

取組の種類	概要
人工林の管理	<ul style="list-style-type: none"> 間伐を行い、植林地の適切な管理を行う 木材生産にも考慮した施業を行う 一部の地域では皆伐して広葉樹の苗を植え、広葉樹林として再生させる
伐採跡地の管理	<ul style="list-style-type: none"> 野生生物が生息しやすい広葉樹林として再生を目指す 広葉樹林として再生するために、対馬に自生するコナラ等のドングリを集めて苗を作る
広葉樹二次林の管理	<ul style="list-style-type: none"> 開発を行わず、現在の環境の維持・保全を図る方針で管理作業を実施する
休耕田の管理	<ul style="list-style-type: none"> 湿地として機能しているため、水位の管理により多様な生物が生息できる環境の維持を図る ツシマヤマネコの他、対馬固有種であるツシマアカガエル等の貴重な両生類の保全をねらう
草地(茅地)の創出	<ul style="list-style-type: none"> 草地を創出し、生物多様性の向上を図る 特にツマヤマネコの餌となるネズミ類の増殖をねらう
生物調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> 環境省が住民参加型の調査として、ツシマヤマネコの生息状況調査、餌となるネズミ類のモニタリング調査を実施する
拠点施設の確保	<ul style="list-style-type: none"> 廃校となっていた旧舟志小学校を「舟志の森 自然学校」として改修し、宿泊施設やトイレ、多目的スペース等を整備
環境教育・意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 植樹祭を開催 地元小学校の参加によるドングリの苗作りを実施
地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> 「舟志の森 自然学校」を拠点としたエコツーリズムを検討中 ツシマヤマネコだけではなく舟志地区の自然・文化を活かし、地元住民がそれぞれの得意分野を活かしたガイドとなることを目指す

POINT
2

多様な主体が連携する取組の体制

地元住民、企業、行政、ボランティア団体の連携による活動

舟志の森では、森林管理の主体である地元住民、土地所有者である住友大阪セメント㈱、行政機関である対馬市、対馬にてドングリの苗作り等の活動を続けてきたボランティア団体であるツシマヤマネコ応援団の4者が協定を結び、「舟志の森づくり推進委員会」を組織している。この4者に環境省対馬野生生物保護センターを加え、それぞれの立場を活かした役割を果たすことで、効果的な活動が実践されている。

舟志の森における各主体の役割分担

舟志区(地元)	住友大阪セメント(株)
<ul style="list-style-type: none"> 森林管理の業務を請負う形で間伐等の作業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> CSR活動の一環として、社有林を無償提供 間伐等が必要な人工林管理のための費用等の負担
ツシマヤマネコ応援団	財團法人
<ul style="list-style-type: none"> ドングリの苗づくり 植樹祭等のイベントの企画運営 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局を担当 運営費の管理、関係者間の連絡調整等
環境省対馬野生生物保護センター	
<ul style="list-style-type: none"> ツシマヤマネコの保護の観点からの助言 参加型のツシマヤマネコ生息状況調査 	



どんぐり苗づくりの様子

取組の成果

- 森作りの成果が見えるようになるには時間がかかるが、地元、団体、行政、企業の4者の連携体制が確立し、活動の継続が期待される状態になった。
- この活動をきっかけとして、活動地以外の森についても適正に管理するための仕組みが模索され始めている。
- 舟志の森において、自動撮影装置によりツシマヤマネコの姿が確認され、生息地として利用されていることが明らかになった。



取組のキーパーソン・キーセクション

舟志の森づくり推進委員会

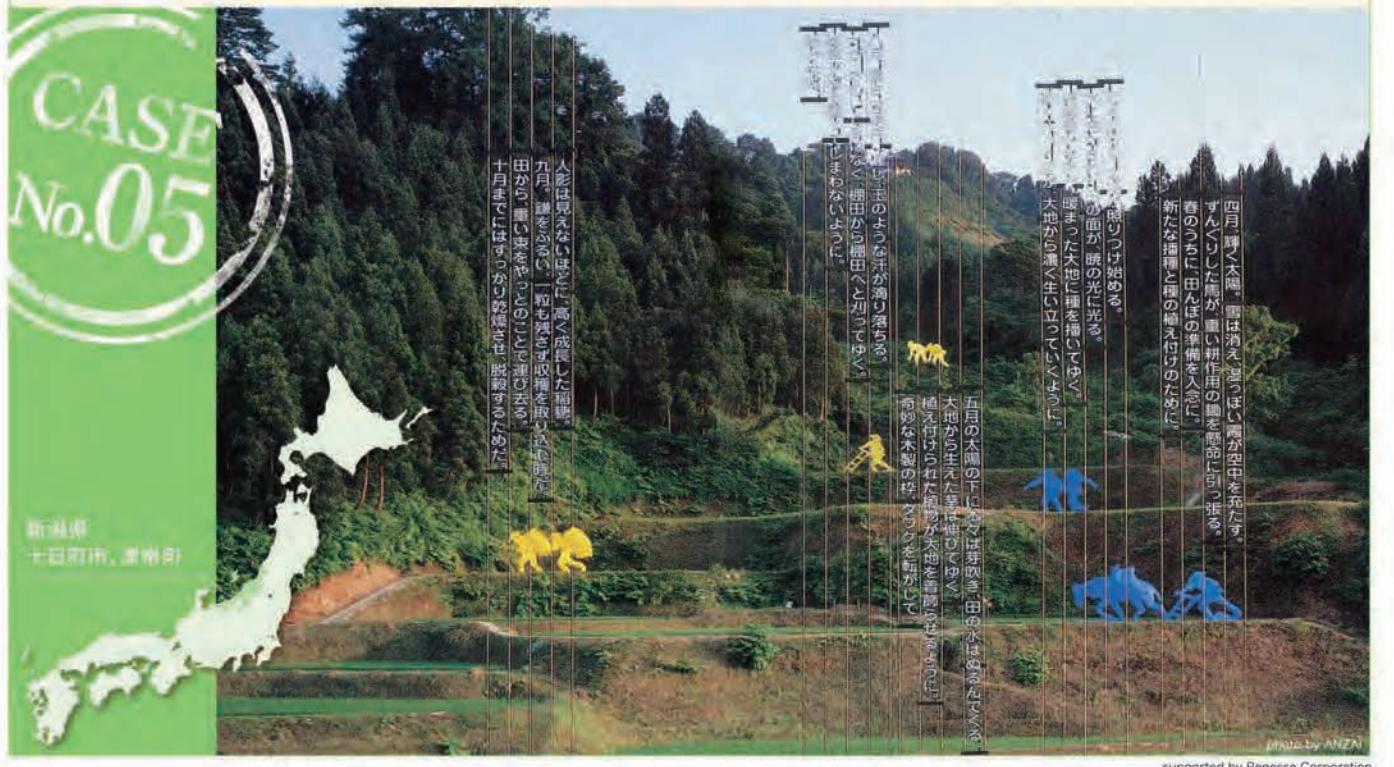
地元住民、行政、企業、ボランティア団体の4者による協働はツシマヤマネコの保全が目的としては初の試みであったが、それぞれの得意分野を活かすることで効果的な活動となり、ついには舟志の森でツシマヤマネコが確認されるまでになった。今後は保全管理のみではなく、地域活性化の取組も進めいく予定である。

コンタクト先：舟志の森づくり推進委員会事務局（対馬市自然環境推進室）
〒817-0022 長崎県対馬市厳原町国分1441番地
TEL 0920-53-6111
E-mail hrkz-kusu@city.nagasaki-tsushima.lg.jp

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	県	都道府県名	市町村名	主要内容
ハサンベツ里山	15	北海道	栗山町	生物多様性に配慮した河床保全や草刈りで害獣異常発生を抑制
弘前だんぶり池	17	青森県	弘前市	中山間地耕作放棄水田におけるビオトープ造成、トンボやメダカ等が復活
矢沢地域	18	岩手県	花巻市	ゼニタナゴを中心とする淡水魚類の保全活動、環境教育等を実施
久保川イーハトーブ	22	岩手県	一関市	伝統的里山管理の維持継続で多様な動植物生息環境を確保
蕪栗沼	26	宮城県	大崎市	蕪栗沼周辺の水田で環境保全型農業に取り組み、野鳥や水田周りの生き物を保全
太田町駒場	27	秋田県	大仙市	イバラトミヨが生息する湧水・水路等を保全
宍塙大池周辺	32	茨城県	土浦市	活動団体が多様な主体と協働し都市近郊の里山を総合的に保全・活用
天竜山・多峯主山	38	埼玉県	飯能市	開発中止の用地をNPO主導で環境回復、関係企業・行政も協力
下大和田谷津	41	千葉県	千葉市	谷津田保全に古代米栽培で参加を募りメダカなどの生息場を維持
奈良川源流域の谷戸・樹林地	49	神奈川県	横浜市	里地里山の自然資源を活用した公園の管理、農作業支援などを通じ源流域の生物多様性保全
小佐渡東部地区	56	新潟県	佐渡市	トキの野生復帰を目指し、農地や森林整備と人々の理解促進
桶ヶ谷沼	59	静岡県	磐田市	行政、研究者、NPOが連携しベッコウトンボを指標に里山保全
中池見	64	福井県	敦賀市	伝統的稻作の復活により水田と関わりが深い希少動植物を保全
白山・坂口地区	66	福井県	越前市	環境保全型農業、農産物ブランド化を進め、動植物調査・保全活動も
河辺いきものの森	81	滋賀県	東近江市	行政、NPOが協力し、多様な生き物が生息できる里山づくり
いなみの台地	96	兵庫県	加古川市	散在するため池の保全活動をネットワーク化し保全の重要性を発信
福栄地区	106	鳥取県	日南町	サクラソウ自生地を集落で再生し、都市との交流の資源にも活用
大山鏡ヶ成	107	鳥取県	江府町	行政と地元団体の協力により、管理作業や調査を実施し、動植物の保全とエコツーリズムを展開
三瓶山〈東の原〉	108	島根県	大田市	草原環境維持を通じた、ウスイロヒヨウモンモドキの生息環境保全・管理
世羅台地周辺	113	広島県	三原市	ヒヨウモンモドキの生息地地権者と覚書を交換、住民参加で保全活動
伊尾・小谷地区	116	広島県	世羅町	希少種保護のための営農法(品種切替含む)に地元主導で取り組む

越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)



基本情報

所在地	新潟県十日町市、津南町
主な取組内容	大地の芸術祭開催によるアート作品で里山景観再認識のきっかけに
実施体制	中心的主体 実行委員会(参加者:十日町市、津南町、経済団体、観光関係団体、教育・文化関係団体、奉仕・地域づくり関係団体、地域団体、新潟県等) 連携主体等 NPO法人越後妻有里山協働機構、こへび隊(サポート活動組織)
生態系タイプ分類	ミズナラ林
地域区分	中山間地
環境タイプ	二次林、草地、畑、小川・水路、池沼・湿地、ため池、社寺林、人工林

取組内容

越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)は、新潟県南部に位置する中山間地域であり、冬には2mを超える積雪がある豪雪地帯である。地域には今なお、森林や棚田などで構成される美しい景観や固有の生活文化が継承されているが、近年の過疎化・高齢化によってこれらの継承が危ぶまれている。

「大地の芸術祭 越後妻有アートリエンナーレ」(以下、「芸術祭」と呼ぶ。)は、地域資源を活用した活性化を図るため、越後妻有地域の全域(約760km²)を芸術の舞台に見立て、そこに地元住民と世界の第一線で活躍するアーティストとの協働によって現代アート作品を設置・展示するプロジェクトである。芸術祭のコンセプトは「人間は自然に内包される」であり、目的は「交流人口の増加」「地域の情報発信」「地域の活性化」の3つである。

第一回目の芸術祭が2000年に開催され、その後3年ごとに開催され、2012年には第五回目が開催される予定である。また、これらの間にも、様々な関連イベントやプログラムが開催されている。



越後妻有地域の景観
(上:星峰の棚田、下:美人林(ブナ林))

取組の特徴

POINT 1

景観や生活文化を基盤とする新たなプログラムの実施

里地里山の地域資源と「現代アート」を結びつけた地域内外のコミュニケーション

芸術祭の舞台は、伝統的な景観や生活文化が継承されている地域住民の生活・生業の場であり、そこに「現代アート」を設置するという従来にない新しい組み合わせは、当初から多くの地域住民に受け入れられたわけではなかった。第一回目の芸術祭に参加した集落は28集落であったが、そのうち棚田等の民有地への設置協力が得られた集落はわずかであり、多くの作品は公園などの公共スペースに設置された。

しかし、地域の外から多くの人々が訪れて楽しんでいる様子を地域住民が目の当たりにしたことや、芸術祭に対する全国的な关心や評価の声がマスコミ等を通じて地域住民に伝ったこと、そしてサポーター集団「こへび隊」の熱心な活動により、徐々に理解と協力が拡大し、開催を重ねるごとに参加集落・会期中作品数・入込客数が増加し、様々な空間に作品が展開するようになった。

また、地域住民の間で、アーティストや都市からの来訪者とのコミュニケーションを通じて、芸術祭の舞台である地域の景観や生活文化の素晴らしさが再認識されてきている。



設置された作品の数々



POINT 2

景観や生活文化を活用する取組への展開

「アート」を付加価値とする都市農村交流事業や地域産品振興への展開

芸術祭による地域内外の交流の拡大を契機として、新たな都市農村交流事業や商品開発の取組が生まれている。

例えば、2003年には、十日町市松代地区で、棚田の継承を目的とする「まつだい棚田パンク」が始まった。これは、地域外の在住者が棚田の里親(オーナー)となり、農作業に参加する代わりに配当米を受け取る仕組みである。現代アートの鑑賞に訪れた人を、里地里山の保全活動に誘う仕組みとして機能しており、現在は約100組が参加している。

また、地域産品振興の取組として、「Roooots 越後妻有の名産品リデザインプロジェクト」が始まっている。これは、地域産品と全国の若手クリエイターのマッチングを行い、新しいパッケージを生み出す取組である。これまで米や日本酒、菓子など約30点が実現し、地域産品の売上増加に貢献している。また、「2010年度グッドデザイン賞・パブリックコミュニケーション部門」など数々の賞を受賞している。



棚田パンク参加者による作業の様子



リデザインプロジェクトにより生み出されたパッケージ

これまでの開催実績

開催年	入込客数	登録集落	会期中作品数
2000年	162,800人	28集落	146作品
2003年	205,100人	38集落	224作品
2006年	348,997人	67集落	329作品
2009年	375,311人	92集落	365作品

エピソード: 芸術祭をきっかけとした棚田耕作の継続

第1回芸術祭で、ロシアのイリヤ＆エミリヤ・カバコフ作「棚田」が設置された場所は、地元農家の福島友善氏の所有地である。

福島氏は、芸術祭の開催前には耕作をやめようかと考えていたが、自分の棚田まで数多くの人が作品の観賞に来てくれたり、福島氏は話しかけてくれたことに喜びを感じ、その後6年間にわたって棚田の耕作を続けた。

取組の成果

- 芸術祭の準備と開催を通じて、地域住民とアーティストの交流、地域住民どうしの新たな交流、地域住民と都市住民の交流、海外からのアーティストや鑑賞者来訪による国際交流など、地域内外を問わず多様な交流が生まれている。
- 芸術祭への来訪者やマスコミ等が、芸術祭の内容や越後妻有地域の素晴らしさを高く評価し、それが地域住民に伝わったことにより、地元住民が自らの地域の景観や生活文化を再認識することにつながった。
- 芸術祭を継続したことにより、都市農村交流を通じて棚田の担い手確保を目指す「まつだい棚田バンク」や、景観や生活文化の基盤となる産業の活性化を目指す「Rooooots 越後妻有の名産品リデザインプロジェクト」など、里地里山地域の社会・経済的課題の解決に寄与する新たな取組が始まっている。



取組のキーワード・キーセクション

NPO法人越後妻有里山協働機構

NPO法人越後妻有里山協働機構は、2007年に設立された芸術祭のサポート組織であり、文化・芸術を媒介にして人と人をつなぎ、住民が元気で誇りをもって暮らし、訪れる人々と夢や希望を分かち合える地域をつくることを目的としている。

コンタクト先：越後妻有「大地の芸術祭の里」総合案内所 〒942-1526 新潟県十日町市松代3743-1
TEL 025-595-6688 E-mail info@tsumari-artfield.com URL http://www.echigo-tsumari.jp/

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地図番	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
木藤古集落(パッタリー村)	19	岩手県	久慈市	伝統的な山村文化の継承・再生、長年にわたる都市農村交流活動も
一関本寺	21	岩手県	一関市	地域住民が自ら地域資源を見直すことによる、農村景観を活かした地域づくりと歴史的景観の保全
坪沼地区	24	宮城県	仙台市	里地里山景観を活かして都市との交流を進め、地域活性化・文化伝承へ
富士権現山山麓	33	茨城県	桜川市	鎮守の森を守るために、周辺の里地里山の保全と文化継承の活動
谷田・武西の谷津	43	千葉県	白井市、印西市	里地里山のあるニュータウンを自然共生を考える住環境モデルに
国営昭和記念公園「こもれびの里」	45	東京都	立川市	行政と協働で整備した公園内の里地里山エリアで生活行事などを継承
遠州南部地区	60	静岡県	掛川市、袋井市、磐田市	地域の各分野の専門家団体が文化伝承と農業継続の重要性を訴え
青鬼	69	長野県	白馬村	集落農家が稲作を続け、伝統的な用水路や棚田を継承することで農村景観を保全
信濃町癒しの森	70	長野県	信濃町	森の癒し効果に着目し、都市住民向けのプログラムを官民共同体制で展開
針江地区	79	滋賀県	高島市	伏流水を集落全体で利用する水文化を再評価し、エコツアーや活用
上世屋地区	84	京都府	宮津市	藤織り、ササ葺き家屋再生などを通じて技術伝承と里山管理
美山町江和地区	88	京都府	南丹市	荒廃した森林を住民主導で整備し、在来種の樹木で集落景観を維持
森地区	91	大阪府	交野市	民間企業主体で府の制度も活用し伝統あるサクラの森を再生
砥峰高原	98	兵庫県	神河町	スキ草原の景観保全のための伝統的火入れと観光資源としての活用
稻割棚田	101	奈良県	明日香村	オーナー制定着後「棚田ルネッサンス」として共生の新しい文化発信
奥出雲	109	島根県	奥出雲町	砂鉄と木炭による「たら製鉄」の遺構と伝統技術継承の取組み
大併和西棚田	112	岡山県	美咲町	棚田を活かした農産物のブランド化や地域活性化に官民挙げて取り組み、棚田を保全
櫻原の棚田	119	徳島県	上勝町	オーナー制度等の外部交流を通して棚田景観を保全
中山千枚田	120	香川県	小豆島町	耕作放棄田を水利組合が手入れして棚田景観を保全、伝統芸能も継承
石畳地区	124	愛媛県	内子町	むら並み博物館と称し、生活風景を保全しながら石積み技術等を継承
鴻ノ巣山特別緑地保全地区	128	福岡県	福岡市	都市内に残された里山で落葉広葉樹林の回復により景観保全
白糸台地の棚田群	134	熊本県	山都町	棚田オーナー制度を中心として都市と農村が深く交流することにより地域を活性化
井上地区	136	大分県	豊後大野市	歴史ある農業水利施設を活用した農業生産の継続と農村文化の保全活用
都井岬	138	宮崎県	串間市	伝統的に行われてきた野焼きや放牧によって草原を維持することで、草原の景観や生き物を保全
喜如嘉地区	142	沖縄県	大宜味村	後背林からの多様な自然資源を利用し、染織などの伝統工芸を継承
東崎	144	沖縄県	与那国町	伝統的に行われてきた与那国馬の放牧によって草原の環境・景観を維持

取組の手法④-a：里地里山の価値に対する社会的認識の向上

北田地区(徳島県海陽町)



基本情報

所在地	徳島県海部郡北田地区
主な取組内容	中学校の総合学習でのビオトープ整備・運営に多様な主体が協力
実施体制	中心的主体 宮喰中学校
連携主体等	地域住民、地域の業者、専門家
生態系タイプ分類	シイ・カシ萌芽林
地域区分	中山間地
環境タイプ	水田、人工林

取組内容

海陽町立宮喰中学校では毎週の総合的学習の時間において、「土に親しみ、自然を科学し、人とかかわる」をテーマとした「宮中村」学習を行っている。宮中村学習では、全学年を生産村、科学村、地域村の3グループに分け、様々な体験学習を行う。その一環として、学校に隣接した棚田の休耕地をビオトープとして再生させ、子どもたちが管理活動や自然観察等を行っている。

全学年が3グループに分かれ、全学年と一緒に体験学習を行うことでリーダーシップや人との関わり方の育成を目指している。また、年一回行われるグループ分けの際にはできる限り子どもたちの希望を取り入れるようにし、宮中村活動を通して子どもたちが好きなことを見つけ、積極性や問題解決能力等が育つことをねらいとしている。

活動の内容によっては地域の様々な人たちと協力して活動を行っている。また、子どもたち自らが毎週「宮中村だより」を発行し、保護者や地域の方に活動報告をしている。



ビオトープにおける活動の様子
(上:草刈、下:泥深い)

取組の特徴

POINT
1

生産・科学・地域を通した環境教育

総合的学習の時間を利用し、全学年協働で活動を実施する宍中村学習

宍喰中学校は総合的学習の時間を利用して、「宍中村」学習と呼ばれる体験プログラムを実施している。このプログラムでは、全生徒を「生産村」、「科学村」、「地域村」の3グループに分け、グループごとに全学年が一緒になって活動を行っている。また、グループの中ではさらにいくつかの「班」に分かれており、内容によっては地域の方とも協力しながら、多様な体験プログラムを実施している。

宍中村学習の概要

3年	3年	3年
2年	2年	2年
1年	1年	1年

全学年を縦割りで3つの村(グループ)に分ける。各村で全学年が協働活動することで幅広い人間関係を深める。特に高学年の生徒については、主体性やリーダーシップの育成をねらう。



POINT
2

地域の中での理解の醸成

地域の人たちが活動に協力し、また、子どもたち自らが地域に報告する

宍中村学習は、その内容に応じて地域住民とも協力して実施しており、協働活動を通して、子どもも地域住民も、地域の産業や伝統文化にも触れる機会となっている。また、地域村の中の報道班は「宍中村だより」を通して各班どうしと、家庭、地域を繋ぐ役割を担っている。このような協働活動を通して、子どもたちや地域住民が地域の自然・文化等の大切さについて考えるきっかけにもなっている。

地域との協働した主な活動

活動内容	地域との協働
ピオトープ作り	ピオトープは学校に隣接する私有地であるが、地権者の理解を得て、活動フィールドとして借りている。
活動小屋づくり	ピオトープにある活動小屋は地元の製材業者と協力して建てた。
宍中村祭	宍中村祭には保護者や地域住民も訪れる。餅つき等は地域住民と協力する。
生産村・花班	地域住民と協働で花を植える。
報道班	活動内容を保護者や地域住民に伝え、それぞれをつなぐ役割。
アオリイカの産卵場づくり	地域の林業者と協力して森林の間伐・枝打ち等の森林管理体制を行い、得られた資材をアオリイカの産卵場として利用する。
地域村・職業班	地域の会社や公共施設、美化センター等と協力した学習を実施。
地域村・郷土芸能班	団七踊り等の郷土芸能を地域住民から教わる。

この他にも様々な部分で地域住民と協力している。地域の人と関わる事も学習の一つのねらいとしている。

取組の成果

- 宍中村学習は子どもたちが地域の自然、文化や地域の人たちとの関わりについて考えるきっかけをつくり、地域や環境へ関心を深めることに貢献している。
- 地域の自然や文化に対する関心が深まり、また、自分たちと自然や地域の人たちの関わりに関する理解が進んだ。
- 保護者や地域住民が子どもたちの活動内容の報告を楽しみにするようになった。
- 総合的学習の勉強が好きであると感じている生徒が8割を超えており、生徒からの満足度も非常に高い取組となっている(全国平均は約2割。平成20年度全国学力・学習状況調査より)。
- 約10年続けてきたことにより、子どもたち、地域住民、教師が一緒に考えながら進める体制や体験プログラムの内容が熟成されてきた。
- 休耕地だった棚田が多様な生物の生息地として再生され、その環境が維持されている。
- 全国学校ピオトープコンクール2007(財団法人日本生態系協会主催)にて、文部科学大臣賞を受賞した。



取組のキーパーソン・キーセクション

海陽町立宍喰中学校

海陽町立宍喰中学校は全校生徒が90名ほどの中学校である。以前から体験学習等を行っていたが、「総合的学習の時間」が導入されたことを契機として宍中村学習を開始した。それぞれの得意分野を持つ教師が地域住民、時には専門分野の講師と協力しながら、体験型の教育プログラムを実施してきた。現在では保護者からも子どもたちからも満足度が高いプログラムとなっており、人と自然、人と人の関わり方への理解も進んでいる。

コンタクト先: 海陽町立宍喰中学校 TEL 0884-76-2048 E-mail sisichu@nmt.ne.jp URL <http://www.nmt.ne.jp/~sisichu/>

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
にいつ丘陵	53	新潟県	新潟市	市民参加の里山づくりにより山林所有者の保全再生意識の向上を図る
龍谷大学「龍谷の森」	77	滋賀県	大津市	大学所有の里山林で市民参加の保全活動、新たな利用モデルを模索
朝倉南地区	122	愛媛県	今治市	公民館を中心に、歴史的な風土から、地域の環境保護意識を学ぶ

呉羽丘陵(富山県富山市)

CASE
No.07

富山県 富山市



基本情報

所在地	富山県富山市古沢
主な取組内容	市立動物園を中心に、人、自然、文化を結びつける新しい里山利活用
実施体制	中心的主体 悠久の森実行委員会(呉羽丘陵周辺の44団体・3個人が加盟、詳細は後述) 連携主体等 富山市
生態系タイプ分類	コナラ林(西日本)
地域区分	都市周辺(平地・盆地・丘陵地)
環境タイプ	二次林、草地、水田、畑、小川・水路、池沼・湿地、ため池、人工林、竹林

取組内容

富山市の市街地から身近な場所に位置する呉羽丘陵は、かつての薪炭林等としての利用が減少したことや、手入れされなくなった孟宗竹林の繁茂などが原因で荒廃が進んでおり、絶滅危惧種に指定されているホクリクサンショウウオをはじめ、多くの生き物の減少が発生している。これに対して、呉羽丘陵を始めとする富山市内各地で、里山の保全・利用に向けた取組が開始されたが、個々の活動では継続性や規模拡大などに限界があった。

このため、地域の多様な主体の相互連携ネットワークにより、時代にあった新しい里山再生モデルの創造を目指す運動として「**呉羽丘陵**」(以下、「悠久の森事業」という。)が開始された。また、その推進組織として「悠久の森実行委員会」が設立された。

悠久の森事業では、呉羽丘陵の一角にある市立動物園「富山市ファミリーパーク」を拠点として、現代の里山にできるだけ多くの人に訪れてもらうための手段として、自然・文化・歴史・民俗・音楽・芸術などの多様な視点に光を当てた多様な市民向けプログラムが提供されている。



呉羽丘陵の景観
(上:呉羽丘陵の全景、下:絶滅危惧種のホクリクサンショウウオ)

取組の特徴

POINT
1

里地里山に地域住民を誘うためのイベント開催

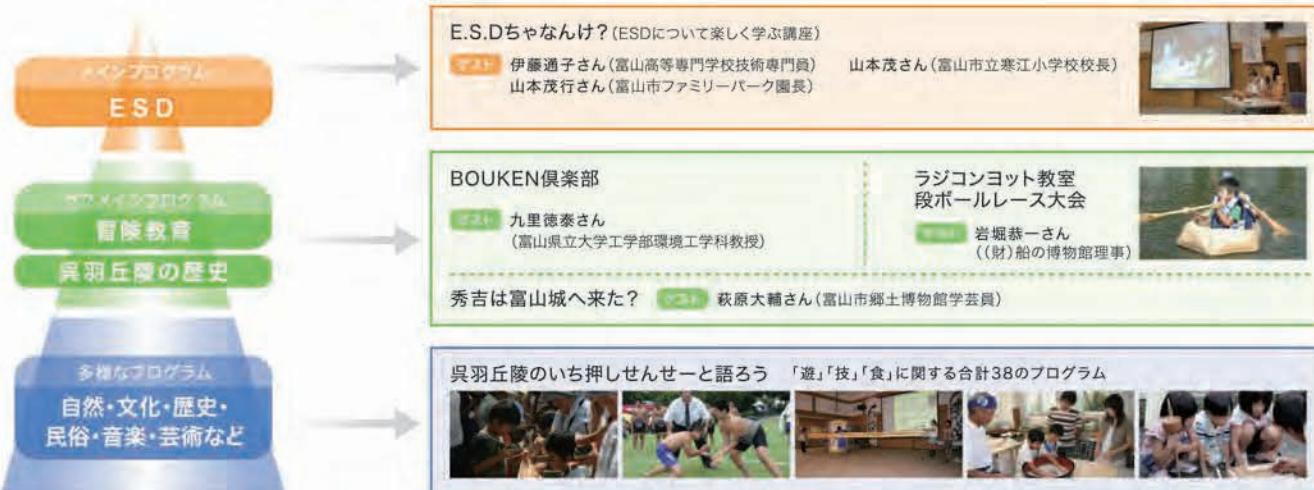
地域住民主体型のイベント運営と住民の特技を活かした多様なプログラムの提供

悠久の森事業の中核をなす基本事業として、2007年から毎年1回、幅広い地域住民、及び市民に呉羽丘陵に足を運んでもらい、「新しい里山の利用」について知ってもらうとともに、呉羽丘陵の将来について一緒に考えてもらう機会を設けることを目的にイベント「悠久の森フェスタ」を開催している。

第1回(2007年)の時点では富山市ファミリーパークが中心となってイベントを運営していたが、第2回(2008年)の開催に当たって、様々な特技を持つ地域住民を「いち押しせんせー」として登録し、「住民が住民に教える」というスタイルを導入したことが大きな転機となり、以降は「地域住民主体型」でイベントが運営されている。

イベントの内容は、「新しい里山再生モデルの創造」という事業理念を踏まえた「メインプログラム」と「サブメインプログラム」と、地域住民を里山に誘うための「いち押しせんせー」による多様なプログラムで構成される。このうちメイン・サブメインプログラムは、回を重ねるごとに内容が充実しており、現在は「ESD(持続可能な開発のための教育)」、「冒険教育」、「生物多様性」といったテーマに力が注がれている。

「悠久の森2010 森と語ろう」の概要(2010年8月28日・29日開催)



POINT
2

里地里山を舞台とする継続的なプログラムの提供

地域の施設や特産品等の連携による通年にわたる里山体験プログラムの提供

悠久の森事業では、毎年1回のイベントに加えて、「**呉羽丘陵**」(以下、「悠久の森事業」という。)も実施されている。これらのプログラムは年を重ねるごとに充実しており、地域住民が通年にわたって里山と触れ合うことができる機会となっている。

「呉羽丘陵」(平成22年度実施)のプログラム

- | | |
|-----|---|
| 4月 | ①春の里山! 史跡探訪ウォーク【里山・史跡のガイドツアー】
②縄のルートを旅しよう【縄をテーマとする講義、体験、動物ガイド】 |
| 7月 | ③じゃがいも掘り体験【じゃがいも掘り体験と試食】
④風鈴と絵付け体験【呉羽小学校児童によるガラスの風鈴の絵付け体験】 |
| 8月 | ⑤お泊まり動物園と吹きガラスツアー【子ども向けの1泊体験ツアー】
⑥梨刈り体験ツアーとファミリーパークの集い【梨狩り体験とファミリーパーク散策】 |
| 10月 | ⑦サツマイモ掘り体験【サツマイモ掘り体験と試食、掘ったイモの動物への餌やり】
⑧呉羽そば「食」プロデュース事業【そば猪口・竹箸づくりと手打ちそば体験・試食】 |
| 11月 | ⑨冬野菜鍋の振る舞いと青空市【地元の冬野菜鍋の振る舞いと青空市の開催】
⑩あなたの蕎麦に【カップル向け手打ちそば体験と試食】 |
| 2月 | ⑪ノルディックウォーキング【ストックを使ったウォーキング体験】 |



じゃがいも掘り体験の様子

取組の成果

- 毎年1回開催されているイベント「悠久の森フェスタ」は、1~2日間の開催期間中に約1万人の来場者があり、地域住民や市民に呉羽丘陵の里山に足を運んでもらい、その保全・活用の必要性を理解してもらう契機となっている。また、その際に「いち押しせんせー」を通して呉羽丘陵には自然・文化・歴史・民俗・音楽・芸術など様々な要素があり、その全てが地域の財産であるという意識を地域住民に持つもらう契機にもなっている。
- 毎年恒例のイベントに加えて、年を追うごとに「施設連携事業」や「地域活性化事業」などの通年プログラムが充実しており、年間を通じて呉羽丘陵の里山の利用増進にも寄与している。
- ESD(持続可能な開発のための教育)や冒険教育をテーマとするプログラムの実施や、地域の学校の環境教育との連携などを通じて、呉羽丘陵の里山を担う「次世代の人づくり」に寄与している。
- 市立動物園である「富山ファミリーパーク」が、自ら生物多様性保全に取り組むとともに、地域住民や活動団体による活動への支援や助言等を行うことにより、呉羽丘陵の生物多様性保全に寄与している。



取組のキーバーソン・キーセクション

悠久の森実行委員会

事業の推進組織である「悠久の森実行委員会」は、地域の多様な主体の参加と協働によって、大人と子どもが互いに、呉羽丘陵が持つ多様な地域資源について「気づき・考え・実行する」ための活動を推進している。

平成23年3月現在、下記の44団体と3人の個人が参加している。

コンタクト先：悠久の森実行委員会事務局

〒930-0151 富山市古沢254番地 富山市ファミリーパーク内

TEL 076-434-1234 URL <http://www.toyama-familypark.jp/local/>

呉羽地域連合自治振興会 呉羽地区自治振興会 長岡地区自治振興会 寒江地区自治振興会 老田地区自治振興会 古沢地区自治振興会
池多地区自治振興会 桜谷地区自治振興会 五福地区自治振興会 神明地区自治振興会 呉羽丘陵にホタルを呼ぶ会 富山市北商工会
富山西ライオンズクラブ 呉羽山観光協会 呉羽懇話会 (有)まちづくり公社呉羽 JAなのはな南部支店 国立大学法人富山大学 富山短期大学
富山市立呉羽中学校 富山市立呉羽小学校 富山市立長岡小学校 富山市立寒江小学校 富山市立老田小学校 富山市立古沢小学校
富山市立池多小学校 富山市立桜谷小学校 富山市立五福小学校 富山市立神明小学校 きんたろう倶楽部 市民いきものメイト 呉羽丘陵の楽校
素の会 富山県埋蔵文化財センター 富山県呉羽青少年自然の家 呉羽ハイツ 富山市ファミリーパーク 富山ガラス工房 富山ガラス造形研究所
富山市民俗民芸村 富山市埋蔵文化財センター 呉羽消防署 富山市天文台 特定非営利活動法人里山倶楽部

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
富田地区	71	岐阜県	恵那市	農地と景観保全に向け、米卸事業者との協働により農業体験・研修の場に
トヨタの森	74	愛知県	豊田市	企業CSRの一環として自社保有の森を環境学習や調査の場に提供
漆の里山	141	鹿児島県	姶良市	里山自然学校、農業体験などを通じ放棄地を減らす地元農家を支援

取組の手法④-c：フィールドを確保し、プログラムを運営する体制の整備

森と風のがっこく(岩手県葛巻町)

CASE
No.08

岩手県葛巻町



基本情報

所在地	岩手県岩手郡葛巻町江刈
主な取組内容	廃校を舞台にした環境教育、里山地域資源を生かしたエコライフ実践
実施体制	中心的主体 NPO法人岩手子ども環境研究所(森と風のがっこく)
	連携主体等 葛巻町
生態系タイプ分類	コナラ林(東日本)
地域区分	奥山周辺
環境タイプ	二次林

取組内容

「森と風のがっこく」は標高700m、12世帯の集落にある廃校を再利用したエコスクールである。2001年、葛巻町の協力を得て岩手子ども環境研究所が開設した。自然エネルギー・足元にある資源を活かした循環型の生活が、楽しみながら子どもも大人も体験できる場をつくり出してきた。北欧のライフスタイルと地場の暮らしにまなびながら過去と未来をつなぐ新たな道を模索し、地元の子どもの居場所づくり、長期自然エネルギー体験スクールなどを実施している。自然資源を取り入れた循環型のライフスタイルを子どもから大人まで体験を通して楽しみながら学びあう多様な活動を進めてきたことが特徴で、来訪者や地域住民が交流する場になっている。



がっこく裏の川で水車をまわす子どもたち

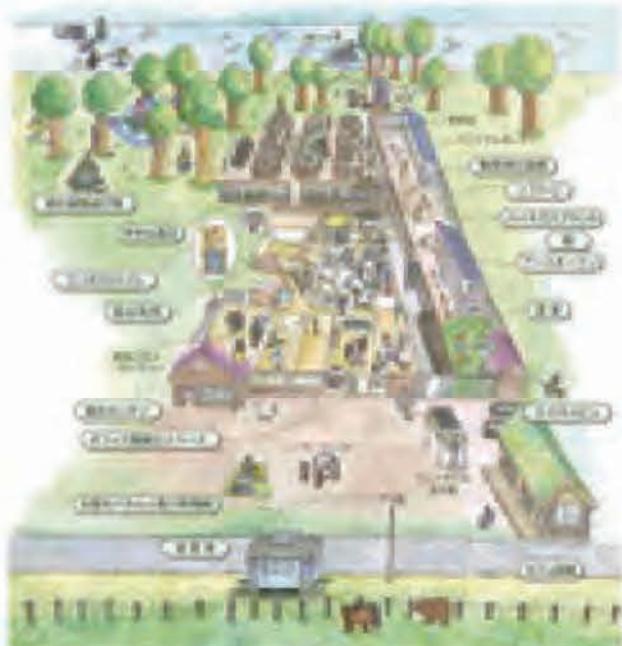
取組の特徴

POINT
1

廃校を利用した活動の拠点づくり

廃校を中心として地域にある資源や自然エネルギーを活かす活動拠点を協働作業で整備

「森と風のがっこう」の拠点は、新しいものを作るのではなく、足元にある資源を活用するという考え方から、廃校となった小学校の施設を利用して整備された。その内容は空き缶風呂やコンポストトイレ、バイオガス装置といったエネルギー利用施設や、子どもの遊び場、農場、カフェなど、多岐にわたっている。地域にある未利用資源などを活用することを方針とし、ボランティアや専門化など多様な人々と協力しながら整備してきた。これらの設備が複合的に機能し、循環型の暮らし体験の場、子どもの居場所、地域との交流の場といった役割を果たしている。



森と風のがっこうの施設（「森と風のがっこう」ホームページより）



主な各施設の内容

施設名	内容
森の冒険遊び場	森と風のがっこう裏にある森と小川は、五感を通して自然にふれる、子どもたちが心からだをいきいきと解き放つ場所。自然の中に手作り遊具が設置されている。川もかっこうの遊び場となる。
畑	毎年開拓を続け、現在では1反以上の広さになった。ニワトリの糞やバイオガスプラントで作られる液肥を利用し、無農薬有機栽培で作物を育てている。豆・カボチャ・イモ・トマト・ほうれん草・チゲなど、収穫した作物は、カフェでの料理やイベントでの食事にも使われている。目指せ、自給自足！
陶管浄化装置	生活雑排水を土に入れながら浄化する装置。空つなぎした陶管のすき間から流れ出た汚水が、毛管現象で上や横に広がり、それを植物の根が吸収しやすいように微生物が分解してくれる。温室内の畑の下に埋まっている。
バイオガスプラント	嫌気性微生物であるメタン菌の働きによって生ごみや糞尿などの有機物からバイオガスと発酵液肥を生み出す。
エコキャビン	100%自然エネルギーを利用する滞在型研修施設を目指して整備。
カフェ森風	地元にあるものを活かして整備したエコロジカル建築。メニューにも地元の食材を使用。地域の交流の場にもなっている。

POINT
2

体験プログラムを盛り込んだエコスクール

持続可能な暮らし方を実際に体験し、楽しみながら学習

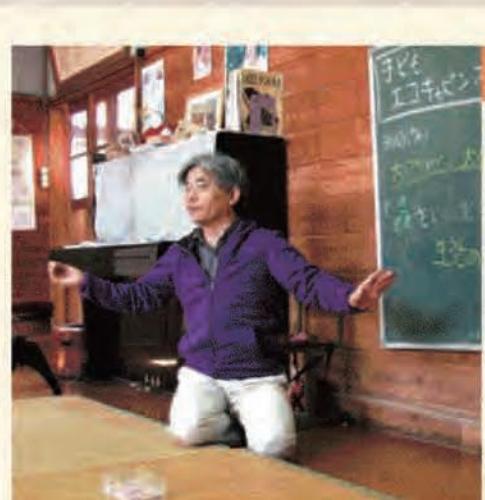
上記の施設を利用し、テーマや対象に応じた多様な体験プログラムを実施している。体験により循環型の暮らししがどのようなものであるか身をもって体験することができ、持続可能な地域づくりに対する理解・認識の向上につながっている。プログラムの内容によっては、「森と風のがっこう」の常勤職員のほか、ボランティアや外部の講師等と協力して運営している。

主なプログラムの例

テーマ	プログラムの例	概要
エコロジカルな暮らし	・自然エネルギーがっこう（大人対象）	森と風のがっこうの環境教育のノウハウの提供や、循環型の暮らしの施設見学・体験などを1泊～2泊のプログラムで開催。
	・くすまき・子どもESDサマースクール（子ども対象）	全国でも他に例を見ない自然エネルギーをテーマとした長期のエコ生活体験プログラム。生活そのものをプログラムの基軸に据えながら、エネルギーの循環、自然資源を活かしてきた山村の暮らし方、いのちのつながり、アート、演劇など様々なテーマが混じり合いながらこれからの持続可能な暮らし方を体験を通して考える。
	・各種体験研修会（団体・小グループ対象）	森と風のがっこうにおける研修・視察を受け入れている。内容は相談に応じて、自然エネルギー、バーマカルチャー、廃校再利用、地域づくり、エコライフ、自然体験など。
子どもの居場所づくり	・子どもオープンデー	子どもたちが自然の中で遊びながら心と体を開放するプログラム。
	・自然体験キャンプ	森や川で遊んだり、土がまの中に薪を燃やしてピザを焼いたりと、子どもたちが自然や自然エネルギーを、あそびを通じて楽しみながら実感できる教育プログラム。
地域の暮らしや自然・文化に学ぶ	・スタディツアー	地域の暮らしや自然、文化に学ぶスタディツアーを開催。
	・食の寺子屋	地元のシニア世代の方々とともに地元の食材を見直すイベント。

取組の成果

- 循環型の暮らしを実現するための設備を多様な人々とともに作り上げることで、環境教育の拠点となるフィールドが形成された。
- 地域の未利用資源や農産物が積極的に利用され、地域の交流の場にもなっている。
- このフィールドを活用し、子ども、大人、団体等を対象とした様々な体験プログラムが提供されるようになり、多くの人々が参加している。



取組のキーパーソン・キーワード

NPO法人岩手子ども環境研究所（森と風のがっこう）
理事長 吉成信夫さん

東京のコンサルティング会社に勤務していた吉成さんは1996年に岩手県に移住し、2001年に葛巻町と協力して「森と風のがっこう」を開校した。NPOのスタッフやボランティア等の協力者とともに子どもの居場所づくりや、自然エネルギー・土地の資源の利用した暮らしの体験プログラム等をコーディネートしてきた。

コンタクト先：NPO法人岩手子ども環境研究所（森と風のがっこう）
〒028-5403 岩手県岩手郡葛巻町江刈42地割17番地 TEL 0195-66-0646
E-mail mori@kaze.mito URL http://www5d.biglobe.ne.jp/~morikaze/

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	面積	都道府県名	市町村名	取組内容
生品・立岩地区	36	群馬県	川場村	世田谷区との交流事業による多彩なプログラムを森林整備に活用
桜宮自然公園	44	千葉県	多古町	産廃問題を機に地権者同士で里山の自然を後世に伝える公園づくり
平林地区	58	山梨県	富士川町	「ふるさと自然塾」で地元住民講師等が多彩な体験学習活動
春蘭の里	63	石川県	能登町	地域の有志による実行委員会で里地里山型ツーリズムを推進
海上の森	73	愛知県	瀬戸市	里山保全のモデル地として、人材育成や情報発信へ向け役割分担
上山高原	99	兵庫県	新温泉町	地域住民をはじめ多様な主体の参画と協働によるエコミュージアム推進
遊子水荷浦の段畑	123	愛媛県	宇和島市	地元住民による段畑の景観保全のための団体設立と、ジャガイモ栽培を中心とした都市農村交流事業
立神峠・里地公園	135	熊本県	氷川町	住民が里地里山の自然資源を活用した公園の維持管理に参加、公園を活用し総合学習を実施

取組の手法⑤-a：地元住民による主体的取組を促進する仕組みや体制づくり

四万十川流域(高知県四万十町)

CASE
No.09

高知県 四万十町



基本情報

所在地	四万十川流域(高知県四万十町)
主な取組内容	川や自然環境に負担をかけないモノづくりで地域の生業を再生
実施体制	中心的主体 （株）四万十ドラマ 連携主体等 地元の農林漁家、地元住民、四万十町役場
生態系タイプ分類	シイ・カシ萌芽林
地域区分	中山間地
環境タイプ	二次林、河川

取組内容

高知県四万十町に本社を置く(株)四万十ドラマは、四万十川中流域の旧大正町、旧十和村、旧西土佐村が出資する第3セクターとして平成6年に発足し、地域の農林産物を使った特産品開発・販売や情報発信などを行ってきた。平成17年には完全民営化して株式会社となつたが、現在も地域住民が株主であり、地域の環境・産業・ネットワークに支えられたコミュニティビジネスを展開している。

(株)四万十ドラマは、「四万十川に負担をかけないものづくり」という理念のもとで、「ローカル」「ローテク」「ローアンパクト」をコンセプトとして、地域の山の恵み、川の恵みが存分に詰まつた約30種類の独自商品の開発・販売や、四万十川の魅力が詰まつたツーリズム事業などを展開している。

(株)四万十ドラマは、自ら生産を行うのではなく、地元の農林水産業者と連携した商品開発・販売や、外部との交流や情報発信など役割を担うことにより、「地域の内外を結ぶネットワークの核」となることで、持続可能な地域資源の活用による活性化に大きく貢献している。



<(株)四万十ドラマの事業内容>

物品販売：地元の農林業の素材にこだわります
商品開発：四万十川に負担をかけないものづくり
道の駅運営：道の駅四万十とおわの運営/通信販売
観光交流：会員制度RIVERを中心とする全国の都市と地方の交流
ノウハウ移転：四万十ドラマの実績・経験にもとづく他地域の支援

取組の特徴

POINT
1

地元住民による自然資源活用への動機付けと支援

地域の「天然モノ」の発掘と地元農林漁家・住民へのアイディア提供による商品開発

(株)四万十ドラマは、自らを「考え方」をつくる会社」と銘打っている。これは、自ら生産を行うのではなく、「四万十川に負担をかけないものづくり」という理念にもとづいて地域資源を発掘し、それを基に地元の農林漁家と共同で商品を開発し、四万十ドラマが外部への販売や情報発信を担うという、企業の姿勢を表している。

(株)四万十ドラマは、協力関係にあるデザイナー(梅原真氏、迫田司氏)と連携しながら、地域の農林水産物や人材が持つ可能性や、それらの活用による地域課題の解決の可能性を見出し、農林漁家や住民にアイディアを提供することにより、地元の「天然モノ」にこだわった数多くのユニークな商品を開発してきた。

主な商品と地元農林漁家・住民との共同開発の例

商品名・写真	地元農林漁家・住民との共同開発の例
四万十ひのき風呂	四万十川流域は古くからのヒノキの産地であるが、林業の不振によって資源として利用されなくなっていた。 そこで、環境の視点を盛り込んだ商品として、ヒノキの間伐材や端材をカットしてヒノキ油をしみこませた入浴剤「四万十のひのき風呂」を開発し、平成9年に販売を開始した。これは(株)四万十ドラマによる商品開発第1号であった。
しまんと緑茶・焙茶	霧が深い四万十町は品質の良い茶の産地であるが、かつては静岡県に出荷されて他の産地のお茶とブレンドされ、「静岡茶」として販売されていた。
シマント ウォンテッド ジャーキー	広井茶生産組合代表の岡峯氏は、何とか四万十のブランドで販売したいと考え、(株)四万十ドラマと共同で茶生産農家への働きかけと商品開発に取り組み、平成13年にペットボトル入りの「しまんと緑茶・焙茶」の発売を開始した。
	シカやイノシシによる農林業への被害に立ち向かうため、平成15年に獣友会の獣師、農家、主婦が集まり、「害獸を益獸に」をスローガンに駆除肉(鹿、猪)を活用に取り組む「しまんとのもり組合」が設立された。
	(株)四万十ドラマは、しまんとのもり組合の取組に協力し、調味料を含めて全て四万十産の材料を用いた「シマント ウォンテッド ジャーキー」を開発した。

POINT
2

地域の内外から理解と協力を得るための情報発信

企業理念の外部発信と内部へのフィードバックによる「人のネットワーク」の形成

(株)四万十ドラマを成長させた重要な要因として、「人のネットワーク」の形成に力を注いだことが挙げられる。

会社の創設期に、協力関係にあるデザイナーの梅原真氏の全面的な協力を得て、四万十川流域の魅力と四万十ドラマの企業理念の発信を目的とした会員制度「RIVER」の設立や、著名人が四万十川の魅力を語った「水の本」の出版によって積極的に情報を発信し、全国各地に「四万十ファン」のネットワークが生まれた。

このような情報発信がマスコミによって話題を呼び、また、企業理念を体現した商品が売れ始めたことによって、当初は地域資源の価値や魅力に気付くことがなかった地元住民の理解と協力が大きく促進された。

なお、会員制度「RIVER」は、平成22年9月よりNPO法人化され、四万十ドラマとは別個に運営されることになったが、「四万十川を中心に【ユタカサ】を考える」という当初の姿勢に変わりはない。



水の本

取組の成果

- (株)四万十ドラマの売上額は、平成7年度の約1,000万円から順調に増加し、平成22年には約3億5千万円にまで成長している。商品が売れる事により、農林漁家の収入や生産意欲が向上している。
- 地元産にこだわった農林水産物の商品開発・販売やエコツーリズムの取組を通じて、古くから四万十川流域で培われてきた人と河川・森林とのつながりの文化や、それが育んできた美しい風景が見直されている。
- 現在は20人の従業員(パートを含む)を雇っており、地域資源の持続可能な利用による雇用創出に貢献している。



(株)四万十ドラマが指定管理者を務める「道の駅とおわ」の様子

取組の手法⑤-b: 地元と外部の協力・連携による取組を促進する仕組みや体制づくり

上ノ原「入会の森」(群馬県みなかみ町)



取組のキーパーソン・キーセクション

株式会社四万十ドラマ 代表取締役 畦地履正さん

畠地さんは、(株)四万十ドラマ設立当初に職員として採用され、「四万十川に負担をかけないものづくり」という理念を大切にしながら事業を成長させてきた。現在は、(株)四万十ドラマの経営に当たるとともに、培ってきたノウハウに基づき、全国各地の農山村地域における地域資源活用ビジネスの支援も行っている。

コンタクト先 株式会社四万十ドラマ
〒786-0535 高知県高岡郡四万十町十和川口62-9 TEL 0880-28-5527
E-mail info@shimanto-drama.jp URL http://www.shimanto-drama.jp/

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
細越ホタルの里	16	青森県	青森市	集落全世帯がホタルの里の会を結成、関係団体と連携し再生活動
鹿島台シナイモツゴの郷	25	宮城県	大崎市	シナイモツゴの郷に里親制度や郷の米作り手の会などを立ち上げ
刺巻水ばしょうの郷	28	秋田県	仙北市	地域集落による水芭蕉群生地の維持保全と地域活性化の取組
西鬼怒川	34	栃木県	宇都宮市	グラウンドワークの仕組みによる農村の生態系の保全と環境教育
里山文化園	39	埼玉県	ときがわ町	町が住民協力の下、保全目的で「里山文化園」を指定し野外博物館へ
柏崎・夢の森公園	54	新潟県	柏崎市	里山復元をテーマとする公園を開設、市民と協働で多様な活動
東山の森	72	愛知県	名古屋市	市民・企業・行政の協働で都市の里地里山を共有の財産として保全
津田・穂谷・尊延寺地区	90	大阪府	枚方市	地権者、市民、行政が地区単位で連携し、里山保全・整備活動
六甲山東お多福山	94	兵庫県	神戸市	複数の市民グループの協働によるススキ草原の再生事業
ハイヅカ湖地域	114	広島県	庄原市	多様な主体の参加により、水源地域の生息環境保全と地域活性化
蕨野の棚田	130	佐賀県	唐津市	伝統的な「手間講」に加え、交流による棚田保全支援の仕組み整備

基本情報

所在地	群馬県みなかみ町藤原地区
主な取組内容	上下流連携による茅場の再生・管理・利用を進め、「現代版入会」の仕組みづくり
実施体制	森林塾青水(下流域の住民を中心とする任意団体)
中心的主体	森林塾青水(下流域の住民を中心とする任意団体)
連携主体等	地元住民(藤原地区)、企業(会員及び賛助会員)、みなかみ町役場
生態系タイプ分類	ミズナラ林
地域区分	奥山周辺
環境タイプ	二次林、草原、小川・水路

取組内容

群馬県みなかみ町藤原地区の上ノ原(元・茅場としての入会山)は、地元住民による草地の共同利用・管理が行われていたが、茅葺屋根や農耕馬用の飼料等の需要がなくなり放置されたまま森林化が進んでいた。

平成2年に発足した「森林塾青水」は、東京や千葉・埼玉といった利根川下流部の都市住民を中心とする市民団体であり、水源地域に当たる藤原地区住民ならびに町役場関係者と連携して次のような活動に取り組んでいる。

- ① 茅場の再生と活用: 春の野焼き、秋の茅刈り(ススキは重要文化財の茅葺材に供給)、侵入樹木の除伐
- ② 生物多様性の保全: モニタリングサイト1000への参加と生物物調べ・観察会の継続実施
- ③ 古道の再生と活用: 昔の生活道や木馬道(キンマミチ)を、自然ふれあい楽習や癒しの場として再生
- ④ 古民家の再生と活用: 空家となっている古民家を再生し、教育旅行や山村文化体験の場として活用
- ⑤ 流域コモンズの構築: 水源地域の環境資源を流域のみんなで持続的に利用・管理する仕組みの構築



草地管理活動の様子
(上左:野焼き 上右:刈り取ったススキによる国指定重要文化財の修復 下:生きもの調べ)

取組の特徴

POINT
1

地元と外部の協力・連携を実現するための体制づくり

下流部の市民団体と上流部の地元関係者との連携によるフィールドの管理と利用

森林塾青水の活動の原点は「飲水思源」(水を飲んで上流部を思う心)であり、設立当初から利根川源流域に位置する藤原地区との協働による「『現代版入会』の仕組みづくりによる里山里山環境の再生と地域活性化」を目標としている。

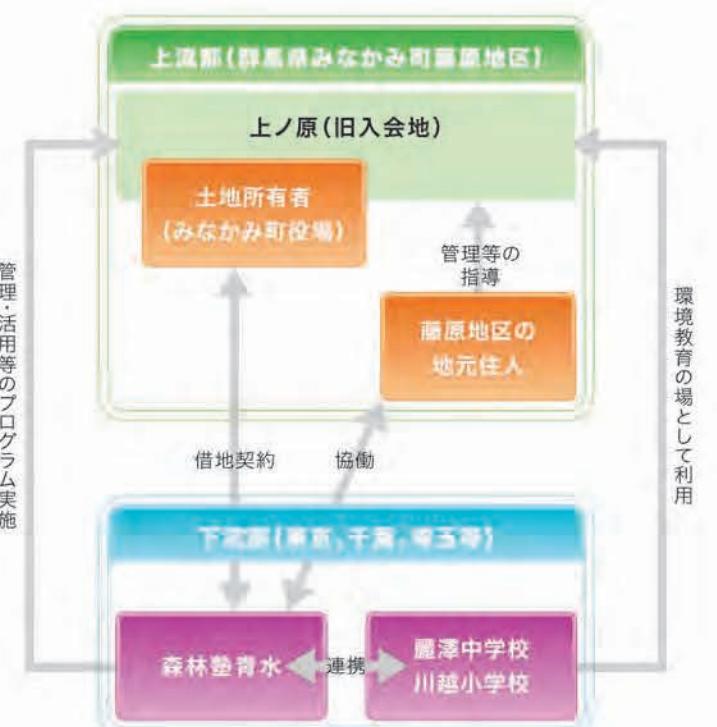
森林塾青水は、このような考え方に基づく取組のフィールドとして、みなかみ町役場から上ノ原にある21haの町有林(旧入会地)を借り受けている。また、取組の当初から地元住民の指導・協力を受けるなど、地元住民との良好な関係づくりに努めてきた。

このような体制に支えられ、上下流連携による取組が10年以上にわたって継続している。



フィールドの看板

主な関係者間のつながり



POINT
2

地域内外からの多様な能力の結集による自然資源管理

計画と伝統的な智恵・技術・文化との融合による地域特性と調和した自然資源管理

上ノ原は、ススキ草地を中心に、ミズナラ林、水辺、湿潤地などを含む多様な要素で構成されており、そのことが多様な野生生物の生息・生育を可能としていることを踏まえ、一律に野焼きや茅刈り等の管理を行うのではなく、ゾーン別の管理・育成方針や中長期的計画等からなるグランドデザインを策定した上で、それに沿った毎年度計画に基づいて活動を推進している。

その一方で、計画に基づく個々の活動においては、地元住民が継承している草地管理技術や行事などの伝統的な智恵・技術・文化を取り入れることにより、地域特性と調和した自然資源管理を実践している。

年間活動計画(2011年度)

月	活動内容
4月	森林塾青水総会&セミナー「ポスト COP10:生物多様性保全のための地域戦略のあり方」 第1回講座「コモンズ村・ふじわら」:野焼き、侵入木除去、「山の口明け」行事、キノコ原木玉切りと菌打ち
5月	第2回講座「コモンズ村・ふじわら」:侵入木除伐、生き物調べと外来種除去、フットパス歩き 麗澤中学「樹木観察会」
6月	第3回講座「コモンズ村・ふじわら」:除伐、初夏の生き物調べ、フットパス歩き、外来植物の除去
7月	自然学習:麗澤中学校「水源の森フィールドスタディ」 自然学習:川越小学校「里山探検隊」
8月	第4回講座「コモンズ村・ふじわら」:ススキの青刈りとマルチ利用
9月	第5回講座「コモンズ村・ふじわら」:初秋の生きもの調べ、キノコ教室、お月見と野点 東京「学習会」①開催
10月	第6回講座「コモンズ村・ふじわら」:茅刈り講習・検定会、秋の生きもの調べ、キノコ原木
11月	第7回講座「コモンズ村・ふじわら」:茅刈り&茅の搬出、割り薪づくり、「山の口終い」行事 東京「学習会」②開催
1月	東京「学習会」③開催
2月	第8回講座「コモンズ村・ふじわら」:かんじき雪原散策、郷土食「ぼた」づくり

※月1回第1水曜日「幹事会」開催

取組の成果

- ススキ草地とミズナラ林を中心に、水辺、湿潤地などを含む多様な要素で構成される「里山としての原風景」が回復しており、そこに生息する多様な野生生物による豊かな生物多様性が回復し保全されている。
- 刈り取ったススキが国指定重要文化財の修復に利用されたり、古道や古民家再生の活動が流域市民参加型で行われるなど、地域活性化に資するとともに地域の伝統的な知恵・技術・文化が再認識され、その継承・活用に向けた機運と新たな取組が生まれている。
- 上下流連携による活動が10年以上にわたって継続するなかで、水源地域の自然・環境資源の持続可能な利用・管理を支える「新たなコモンズ」(流域コモンズ)の仕組みづくりの事例として注目を集めようになり、表彰等の社会的評価を受けている。



取組のキーパーソン・キーセクション

森林塾青水

森林塾青水は、東京や千葉・埼玉といった利根川下流部の都市住民を中心とする市民団体・NPOである。「飲水思源」を合言葉に、そして「楽しみながら良い汗をかく」をモットーに、藤原地区の住民ならびにみなかみ町役場や関係者と協働して、上ノ原の入会地としての歴史・文化の継承、ゆたかな生物多様性と原風景の保全、子供たちへの環境教育の場としての活用などをはかりつつ、生態系サービスを持続的に享受する仕組みづくりに取り組んできた。今後、地域資源の今日的利用の道を拓きつつ、地元ならびに町役場と流域関係セクションの参画による現代版入会(流域コモンズ)を構築するにあたって、中核的活動を担う組織である。

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
突嘴山	13	北海道	旭川市	カタクリ群落保全から公有地化した里山で、NPOと共に年通利用を工夫
ブナの実塾	30	山形県	舟形町	山村の自然環境や生活文化の総合的かつ広域的な保全・再生活動
湯本地区	31	福島県	天栄村	大学・集落連携で再生エネルギー利用とエコミュージアムを推進
船橋市北部地区	42	千葉県	船橋市	NPOが森林所有者と施業の委託契約をし、整備を進める
都立野山北・六道山公園	47	東京都	武藏村山市	民有地を含む広大な都立公園で指定管理者が多様な関係者間を調整
横沢入里山保全地域	48	東京都	あさる野市	地域住民が行政の委託により里山管理と環境学習指導
生田緑地	50	神奈川県	川崎市	市街地の中の里山の自然を行政と市民の協働で保全、活用
藤野町佐野川の里山	51	神奈川県	相模原市	大学、専門家などの協力で都市交流を進め、地域産業で里山保全
秦野地域の里地里山	52	神奈川県	秦野市	里山ボランティアを募集し養成研修、参加しやすさを工夫
ライオン山梨の森	57	山梨県	山梨市	企業が地元と提携して維持管理労力を提供、自然体験の場にも活用
朽木針畑の里山	80	滋賀県	高島市	企業、NPOの特徴を活かし里山の手入れや体験学習、情報発信
毛原の棚田	82	京都府	福知山市	交流事業で応援団を作るとともに府の制度により企業が森づくり活動
綾部市域の里山	83	京都府	綾部市	多様な農業体験・里山体験のプログラムを整備し、1ターン促進
西山地区	86	京都府	長岡京市	古くからの筍の名産地で多様な主体が連携して竹林保全の活動
神於山地区	89	大阪府	岸和田市	里山荒廃防止のため市民、活動団体、企業、漁協、行政が協議会
三草山	92	大阪府	能勢町	トラスト地において、チョウの保全のためにナラガシワをはじめとする落葉広葉樹林の管理を行い、里山環境を維持
甲山グリーンエリア	95	兵庫県	西宮市	行政、専門家、企業、NPOが連携・協働して都市近郊の農地森林保全
山野草の里	100	奈良県	桜井市	農家・活動団体・企業・行政が連携し、產品づくりを通じて荒地復旧
芋谷川流域の棚田	103	和歌山县	橋本市	活動チームが棚田の耕作放棄地を再生、新旧住民交流の場ともなる
西条地区	115	広島県	東広島市	地元酒造協会の基金を運用し、市民や大学の連携で里山保全活動
粉所の里山	121	香川県	綾川町	里山オーナー制度に参加した借主らが里山保全の自立的活動
阿蘇草原地域	133	熊本県	阿蘇市、小国町、高森町、南小国町、鹿野村、西原村、南阿蘇村	野焼き、放牧、採草維持のため支援ボランティアが活躍
飯田高原	137	大分県	九重町	地元行政、企業、農家、NPOが自然学校を軸に協力して里山保全
椿山	143	沖縄県	大宜味村	自然を活かした地域づくりを目指す活動団体が農村と都市交流を通じツバキ類を保全

高安地区(大阪府八尾市)

CASE
No.11

基本情報

所在地	大阪府八尾市高安地区
主な取組内容	伝統的水管理法の池干し再現により、希少種生息環境を再生
実施体制	中心的主体 NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会(地元住民が約半数を占める。) 連携主体等 環境アニメイティッドやお(市民・事業者・教育機関・行政のパートナーシップ組織)に所属する各種団体
生態系タイプ分類	クヌギ・コナラ・アカマツ林
地域区分	都市周辺(平地・盆地・丘陵地)
環境タイプ	水田、畑、小川・水路、ため池、人工林

取組内容

大阪近郊の生駒山地の高安山西麓に位置する八尾市高安地区は、古くから谷水と湧水を導水・貯水したため池を利用した農業が営まれ、宅地開発によって農地が減少した今日においても数多くのため池が残されており、そこにはニッポンバラタナゴ(環境省レッドリスト:絶滅危惧IA類)に代表される豊かな生物たちが息づいている。

NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会(以下、「研究会」と呼ぶ。)は、平成10年に自然保護関係者と高安地区の農家が協力して設立された団体である。

研究会は、保護池における水生生物の保護・調査活動や環境教育に取り組むとともに、ため池の生態系を支える地域の水循環の健全化を図るために、八尾市内で活動する様々な主体(「環境アニメイティッドやお」の所属団体等)と協力しながら、伝統的なため池管理手法である「ドビ流し」の復活や、上流の森林整備などに活動の幅を広げてきた。



上:研究会が管理している保護池
左:ニッポンバラタナゴ

取組の特徴

POINT
1

生態系を支えてきた伝統的な管理手法等の再生

ため池生態系の保全を出発点とした「ドビ流し」再生や森林整備への展開

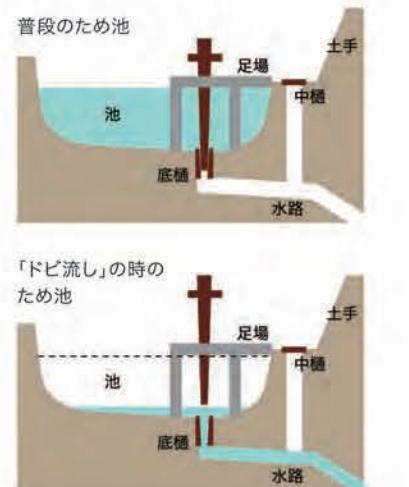
ため池の生態系を回復するためには、水質浄化が大きな課題であったが、浄化槽による水質浄化だけではニッポンバラタナゴが産卵するドブガイが繁殖しないことがわかった。

そこで、かつて地域の農家が行っていた、池底の樋(排水口)を開けて溜まったヘドロを流す「ドビ流し」を定期的に行うこととし、その結果、ニッポンバラタナゴやその産卵母貝となるドブガイの生息状況が改善された。

その後、ため池が涸れたことをきっかけとして、ため池の水量の安定化を図るため、上流に位置する高安山の雑木林や人工林の下草刈り、間伐などの森林整備を行うこととなった。

「ドビ流し」の概要

- 高安地区では、農業開発の本格化とともに、「共有池」が築造されるようになり、個々の農家による水管理と併存する形で、複数の農家の共同による水管理が行われるようになった。
- 共有池では、谷水が不足する夏以降に、水質維持と下流の田畠への土壌改良を目的とした「ドビ流し」が行われるようになった。また、地域の住民たちは、この作業で獲れる魚や貝を食材として利用してきた。
- 「ドビ流し」(池干し)をすることで、ため池の還元泥が酸化泥に変化し、ランソウ類の繁殖が抑えられ珪藻類が繁殖するとともに、溶存酸素量が十分確保された良好な水質が維持される。
- こうした環境には、珪藻類をエサとするイシガキ科二枚貝、エビ類、ヨシノボリやタナゴ等の小魚の生息に適しており、「ドビ流し」を通じて生物多様性が豊かな水辺空間が形成・維持してきた。

POINT
2

里山管理を次世代に継承するための取組

地域の子供たちや若手研究者を巻き込んだ「人づくり」

研究会の代表理事である加納義彦氏は、私立清風高校の理科教師でもあり、研究会の設立以前から生物部の生徒たちとニッポンバラタナゴの研究を行っていた。

研究会の設立後は、清風高校の生徒たちに加えて、地元の中高安小学校、北高安小学校、高安中学校の生徒が参加する「高安みどりの少年団」を結成し、ため池や森林での生物観察・調査、森林の整備と炭焼きの作業などの環境教育を積極的に行ってい。

また、清風高校生物部の生徒・OBや、地域の大学・大学院で魚類の研究を行っている学生なども、子供たちのリーダー役を努めながら、高安地域をフィールドとして研究を行っており、研究会の活動が若手研究者の育成の場となっている。



「高安みどりの少年団」「中高安小学校」の活動の様子

- ため池生態系の継続的な調査や、「ドビ流し」の復活などの水質浄化活動によって、ニッポンバラタナゴやその産卵母貝となるドブガイの生息状況が改善されている。
- 伝統的な「ドビ流し」を定期的に行い、その効果を科学的に調査したところ、予想以上に里地里山の生物多様性を維持する働きがあることが明らかになっている。
- 「高安みどりの少年団」の活動への地域の小中学生の参加や、若手研究者の参加などを通じて、次世代の里山管理を担う「人づくり」が進められている。
- ニッポンバラタナゴの保護やため池保全を契機として、市民・事業者・教育機関・行政のパートナーシップによる環境保全活動が広がっている。



取組のキーパーソン・キーセクション

NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会
代表理事 加納 義彦さん

加納さんを中心とした研究会の活動の対象は、当初のニッポンバラタナゴという生物種の調査研究に始まり、その生息場所である「ため池」の保全、さらには「ドビ流し」や森林整備を通じて「河川」や「森林」へと広がり、今日では地域の多様な主体や次世代を担う子供たちとの協働による「地域づくり」に発展している。

コンタクト先 NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会
〒581-0872 大阪府八尾市郡川4-28 TEL 072-943-5771
E-mail n_baratanago@yahoo.co.jp URL http://n-baratanago.o.o07.jp/

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
荒川高原牧場	20	岩手県	遠野市	歴史的に維持されてきた牧の景観保全、湿地保全
温海地域	29	山形県	鶴岡市	焼畑による循環型農林業と、温海カブの地域ブランド化に向けた取組
三富新田	37	埼玉県	所沢市	伝統的畑作農業によるモザイク的土地利用と循環型資源利用の継承
園師小野路歴史環境保全地域と隣接地	46	東京都	町田市	地元農業者が都の指定地を管理し、環境保全型農業の技術指導
山熊田地区	55	新潟県	村上市	焼畑のカブ、しな布など里山の技術を活用した「生業の里」を設立
ごもろミズオバコビオトープ	68	長野県	小諸市	ミズオバコの生育環境保全に地域固有の水田農法
白王・円山	78	滋賀県	近江八幡市	琵琶湖の内湖「西の湖」でのヨシ産業をはじめとする文化的景観の伝承
保津地域	85	京都府	亀岡市	パートナーシップによる用水路管理で産業と希少種保護を両立
弘川寺歴史と文化の森	93	大阪府	河南町	地元農家の指導で炭焼き、薪の生産、販売を復活
北摂・黒川の里山	97	兵庫県	川西市	輪伐による薪炭材の採集、炭焼き、販売で、多様な生息空間を維持
孟子里山公園	102	和歌山県	海南市	耕作放棄農地をビオトープ化し、無農薬米・ソバを栽培、販売
田辺の硬葉樹林	104	和歌山県	田辺市	硬葉樹二次林における炭焼き技術の継承
隱岐・西ノ島	110	島根県	西ノ島町	「牧畠」の伝統を引き継ぎ、肉用牛馬の放牧と畜産振興を進める
秋吉台地域	117	山口県	美祢市	石灰岩地帯の体験農園で、伝統的なドリーネ耕作を試行
千儀蒔山	132	長崎県	対馬市	集落行事である野焼きを復活、地域固有種などの生息環境も保全
宇納間地区	140	宮崎県	美郷町	伝統的な里山利用である木炭生産の継続による里山景観の維持

取組の手法⑥-b: 現代の里地里山に適用可能な持続可能な資源管理手法の確立

白王地区(滋賀県近江八幡市)



基本情報

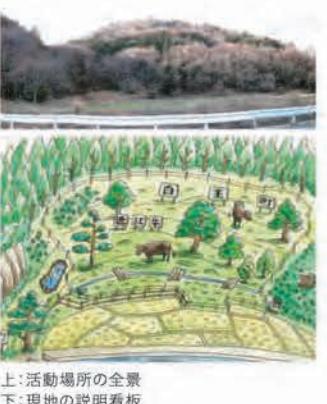
所在地	滋賀県近江八幡市白王町
主な取組内容	獣害対策とバイオマス利用に放棄田・荒廃樹林を整備し、牛を放牧
実施体制	中心的主体 白王町自治会、NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会
	連携主体等 近江八幡市、滋賀県、滋賀県立大学 等
生態系タイプ分類	アカマツ林
地域区分	中山間地
環境タイプ	二次林、水田、畑、小川・水路、池沼・湿地、ため池、人工林

取組内容

滋賀県近江八幡市の北部に位置する白王町では、平成3年頃からイノシシによる農作物被害が目立ち始め、個々の農家が自己流で対策を開始したが、地域全体の問題を解決するには至らなかった。その後、さらに被害が増加したことから、平成15年の「イノシシ対策研修会」の開催をきっかけに地域ぐるみの対策が開始され、平成17年には防護策の設置、林縁部の草地管理、野菜くずの放棄防止などが実施された。

さらに平成18年には、地域住民、NPO、市、県、大学などの連携体制により、イノシシ対策を起点として、景観の保全、木質バイオマスの利用、畜産振興等に視野を広げた「白王里山再生プロジェクト」が開始された。

このプロジェクトでは、農地沿いの山林を伐採・間伐し、耕作放棄地を含む区画への繁殖和牛2頭の放牧が行われている。これらの作業によって発生した木材は、NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会や地域住民が燃料として利用している。



上:活動場所の全景
下:現地の説明看板

取組の特徴

POINT
1

新たな資源管理手法の導入に必要な人材等の確保

地域住民、NPO、市、県、大学の連携による活動体制の構築

獣害対策を目的とする森林の伐採・間伐と家畜放牧は、以前から滋賀県農業技術振興センターによって試験研究が行われていたものの、先行事例がほとんど存在しなかったため、白王町で実践するためには地域外からの技術協力が必要であった。また、新たな取組を開始するためには資金や広報等の面からの支援も必要であった。

「白王里山再生プロジェクト」では、地域住民の意欲に応える形で、森林管理・利用の技術を持つNPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会、技術協力をを行う県関係機関、広報等の支援を行う近江八幡市などが協力することにより、新たな取組を開始することができた。

「白王里山再生プロジェクト」の活動体制



POINT
2

新たな資源管理手法の継続のための役割分担

連携による初期整備から地域住民を主体とする日常管理への移行

森林の伐採・間伐と放牧は新しい試みであったため、取組の当初は、NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会が中心となって森林伐採を行うなど、地域外の主体が積極的な支援・協力を行った。

その後、イノシシによる農作物被害減少等の効果が現れたことによって、地域住民の意識がさらに高まり、現在では地域住民が主体的に日常管理を行い、関係者が適宜支援・協力をしている。

放牧に関する作業の分担及び内容

作業	分担	内容
放牧地整備	・地域住民 ・NPO ・県農業技術振興センター	<ul style="list-style-type: none"> NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会と地域住民が協力し、伐採や間伐等の作業を実施。 放牧地は水田を守るように山側の耕作放棄地と伐採間伐した林間に設けられ、1年目(平成18年)は50a、その後拡大して平成20年には約100aとなっている。 放牧地は太陽光発電を電源とする簡易電気柵で囲い、湧水を利用した水槽、スタンチョン(牛の首かけ)、鉱塩台を設置し、立木を日(雨)よけ小屋代わりに利用。
放牧準備	・畜産農家 ・地域住民	<ul style="list-style-type: none"> 舍飼いの繁殖和牛を、屋外飼育や電気柵に慣れさせるため、畜産農家の牛舎近くに馴致場を設置し、放牧馴致を実施。
家畜の日常管理	・地域住民	<ul style="list-style-type: none"> 放牧頭数は繁殖和牛2頭で、初夏から秋に放牧。 日常管理は集落で実施され、当番制で牛の観察、日誌記帳等が行われている。 飼料は濃厚飼料を1日1～2回、ドンブリ茶碗で1杯ずつ給与し、それ以外はササを中心とした野草である。



上: 放牧地整備の様子
中: 放牧された繁殖和牛
下: 地域住民による観察の様子

取組の成果

- 森林伐採・間伐と放牧によってイノシシによる農作物の被害が著しく減少したことと加え、長期的には繁殖和牛の放牧による畜産振興の効果も期待されるなど、地域の農業振興に寄与している。
- 森林の伐採・間伐や放牧が行われたことにより、林床や耕作放棄地の環境が改善し、植生の復活による生物多様性向上や、見通しの良い快適な景観の回復といった効果が得られている。
- 取組を進める中で地域住民の意識が向上し、地域の森林や農地を共有財産として守っていこうという気運が高まり、地域住民が主体となった活動が現在も継続している。
- 先進的な取組事例として様々な表彰等を受けている。また、滋賀県内への展開が期待されるモデル的取組として注目されている。



取組のキーパーソン・キーセクション

近江八幡市白王町の地域住民 (写真上) NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会 (写真下)

現在の「白王里山再生プロジェクト」は、近江八幡市白王町自治会、近江八幡市白王町農事改良組合を始めとする地域住民が自主的に進めており、それに対してNPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会などの地域外の協力者が支援・協力をしている。

コンタクト先① 近江八幡市白王町農事改良組合 西川進
〒523-0803 滋賀県近江八幡市白王町806

コンタクト先② NPO法人おうみ木質バイオマス利用研究会 事務局 寺尾
〒522-0081 滋賀県彦根市京町一丁目6-17 TEL 0749-27-5105
E-Mail info@ombk.info URL http://ombk.info/

同じ手法に属する特徴的な取組事例の一覧表

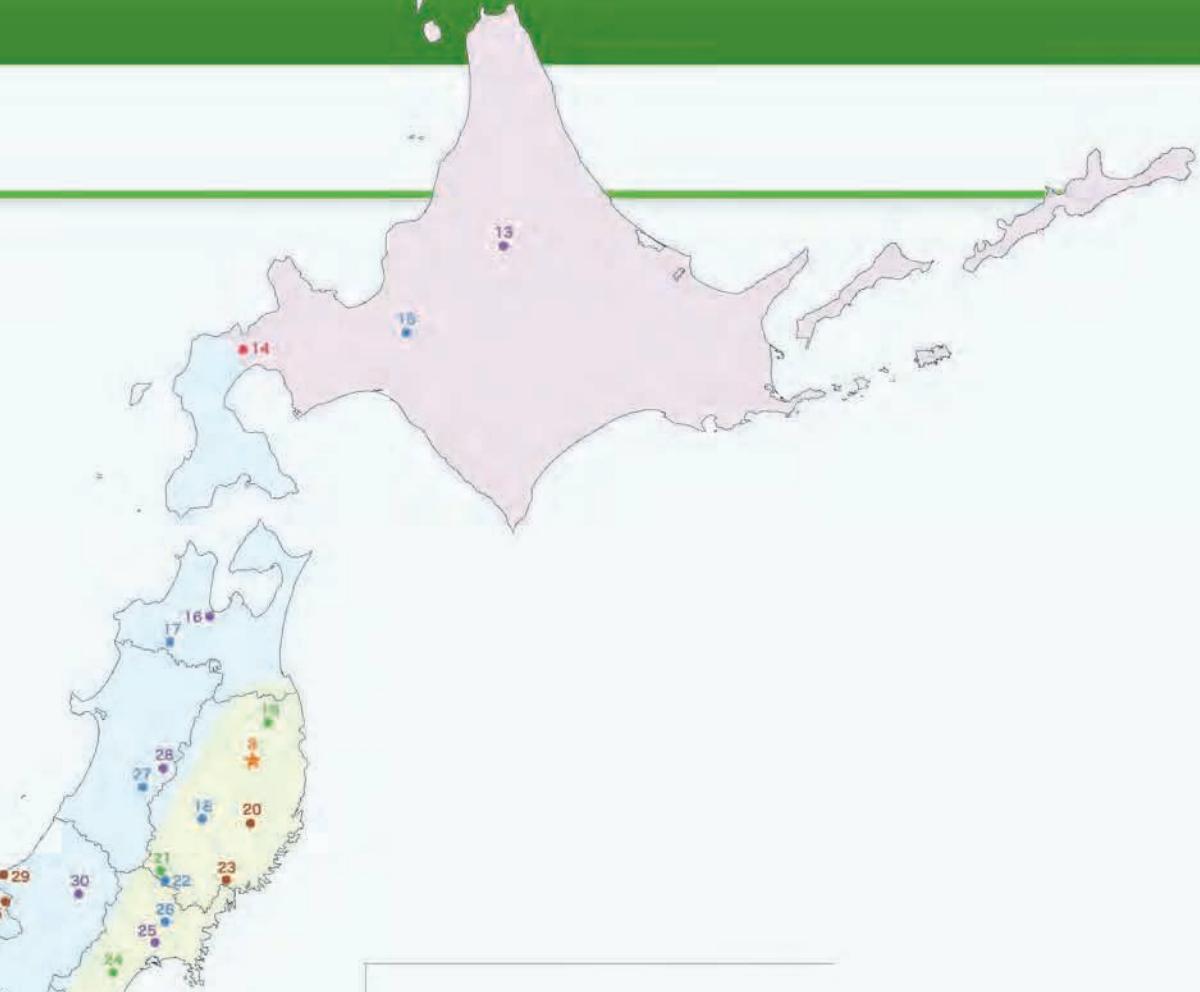
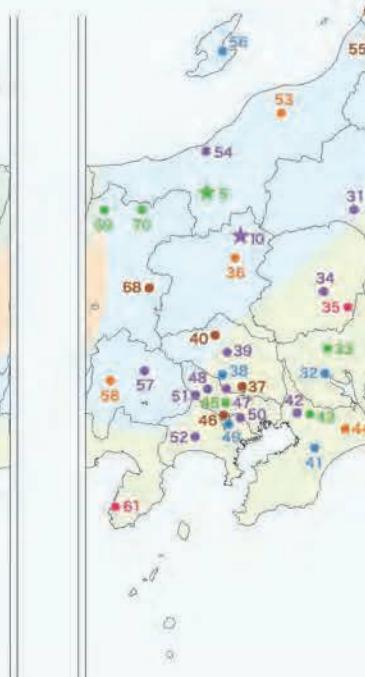
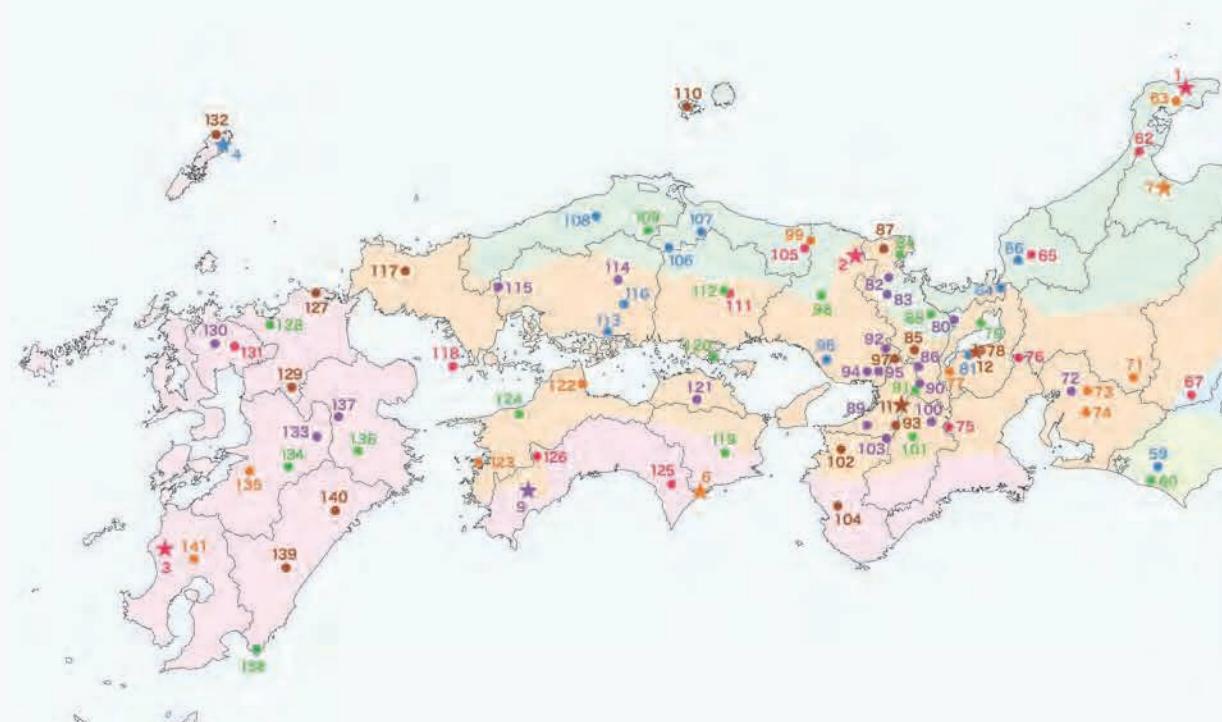
地区名	番号	都道府県名	市町村名	取組内容
生出地区	23	岩手県	陸前高田市	木炭製造の集落の歴史を背景に、木炭発電など新しい技術開発も
浦高百年の森	40	埼玉県	寄居町	高校同窓会が土地を借りて多様な森林を整備、環境教育にも活用
船木地区	87	京都府	京丹後市	バイオガス発電と農畜産業の連携、民間企業が発電施設を管理運営
本城特別緑地保全地区	127	福岡県	北九州市	定期的なボランティアの参加で竹林伐採、竹の利用法も研究し実用化
笠原地区	129	福岡県	八女市	大学、活動団体の支援により、人工林の林種転換等で里山景観を回復
綾の照葉樹林	139	宮崎県	綾町	自然林回復の手法を取り入れた管理・復元、多様な主体による協定締結

第2章 事例の分布図及び一覧表

全国分布図



km



二次林のブロック区分

目的・進め方の分類 ※★は第1章で詳細情報を紹介している事例

ミズナラ林

コナラ林(東日本)

コナラ林(西日本)

★★① 農林業を軸にした自然資源の持続的な管理・利用の推進

★★③ 良好的な景観の保全、伝統的生活文化の智恵や技術の継承

★★⑤ 里地里山の管理・利用への多様な主体の参加促進

アカマツ林

シイ・カシ萌芽林

その他(シラカンバ等)

★●② 野生動植物やその生息・生育地の保全・管理

★★④ 里地里山の価値に対する社会的な認識の向上、環境教育等の場としての活用

★★⑥ 里地里山の管理・利用手法の再評価と新たな手法の開発

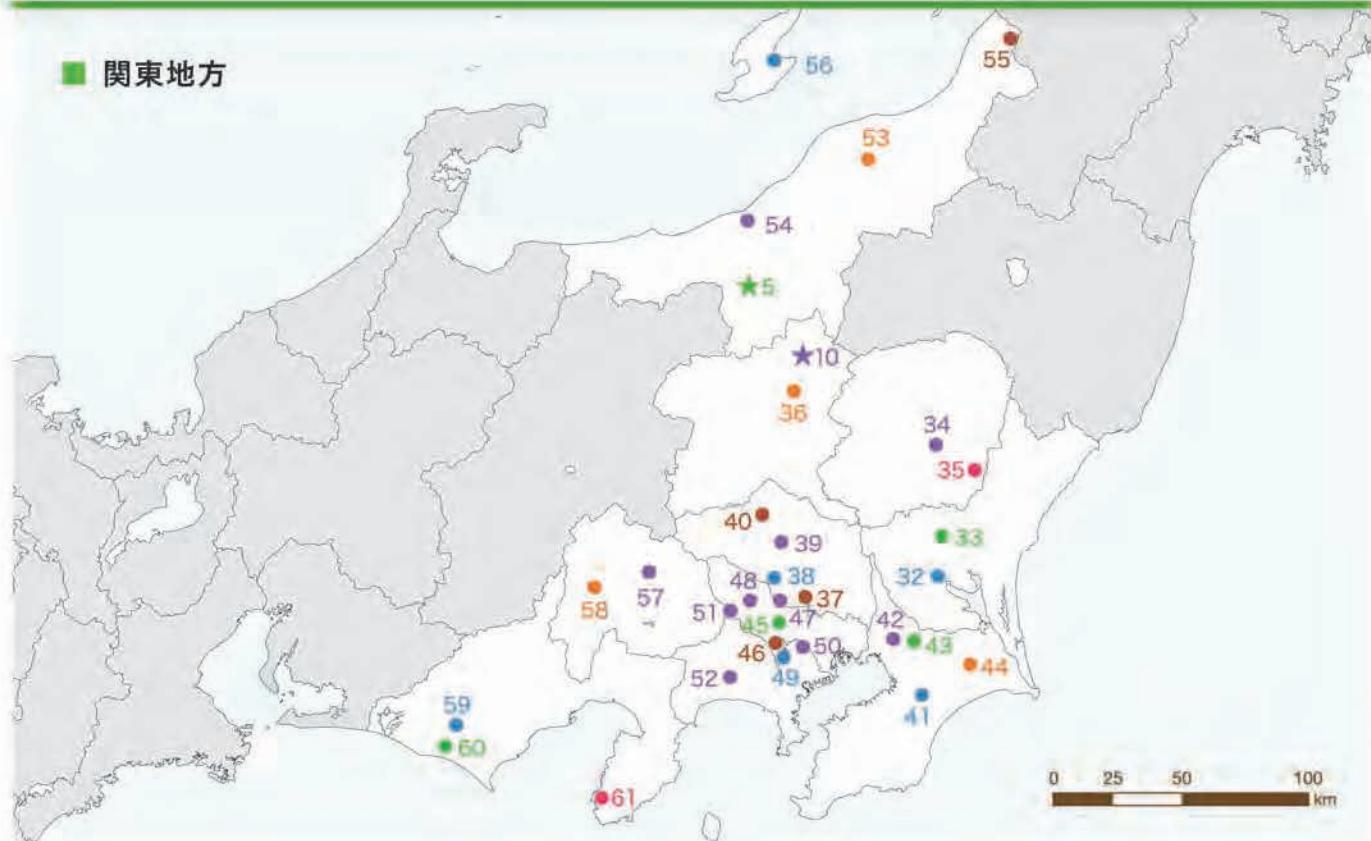
地方別分布図・一覧表

北海道・東北地方



都道府県名	市町村名	地名	番号	取組内容	中心的な活動主体	方策・ツール
北海道	旭川市	突峭山	13	カタクリ群落保全から公有地化した里山で、NPOと共に通年利用を工夫	NPO・企業等	⑤-b
	黒松内町	ブナ北限の里「黒松内」	14	農村の生業継続へ、笹でのブナ林再生などブナ北限の里づくり	連携組織	①-a
	栗山町	ハサンベツ里山	15	生物多様性に配慮した河床保全や草刈りで害獣異常発生を抑制	NPO・企業等	③-a
青森県	青森市	細越ホタルの里	16	集落全世界帯がホタルの里の会を結成、関係団体と連携し再生活動	地元集落等	⑤-a
	弘前市	弘前だんぶり池	17	中山間地耕作放棄水田におけるビオトープ造成、トンボやメダガ等が復活	NPO・企業等	②-c
岩手県	花巻市	矢沢地域	18	ゼニタナゴを中心とする淡水魚類の保全活動、環境教育等を実施	地元集落等	⑤-d
	久慈市	木麗古集落〈バッタリー村〉	19	伝統的な山村文化の継承・再生、長年にわたる都市農村交流活動も	地元集落等	④-a
	遠野市	荒川高原牧場	20	歴史的に維持されてきた牧の景観保全、湿地保全	行政	⑥-a
	一関市	一関本寺	21	地域住民が自ら地域資源を見直すことによる、農村景観を活かした地域づくりと歴史的景観の保全	地元集落等	③-a
	一関市	久保川イーハートープ	22	伝統的里山管理の維持継続で多様な動植物生息環境を確保	NPO・企業等	⑤-b
宮城県	陸前高田市	生出地区	23	木炭製造の集落の歴史を背景に、木炭発電など新しい技術開発も	地元集落等	⑥-b
	葛巻町	森と風のがっここう ★	8	廃校を舞台にした環境教育、里山地域資源を生かしたエコライフ実践	NPO・企業等	④-c
	仙台市	坪沼地区	24	里地里山景観を活かして都市との交流を進め、地域活性化・文化伝承へ	地元集落等	③-e
秋田県	大崎市	鹿島台シナイモツゴの郷	25	シナイモツゴの郷に里親制度や郷の米つくり手の会などを立ち上げ	連携組織	⑤-a
	大崎市	蕪栗沼	26	蕪栗沼周辺の水田で環境保全型農業に取り組み、野鳥や水田周りの生き物を保全	地元集落等	⑤-d
	大仙市	太田町駒場	27	イバラトミヨが生息する渓水・水路等を保全	行政	⑤-c
山形県	仙北市	刺巻水ばしょうの郷	28	地域集落による水芭蕉群生地の維持保全と地域活性化の取組	地元集落等	⑤-a
	鶴岡市	温海地域	29	焼畑による循環型農林業と、温海カブの地域ブランド化に向けた取組	連携組織	⑥-a
福島県	舟形町	ブナの実塾	30	山村の自然環境や生活文化の総合的かつ広域的な保全・再生活動	連携組織	⑤-b
	天栄村	湯本地区	31	大学・集落連携で再生エネルギー利用とエコミュージアムを推進	連携組織	⑤-b

関東地方

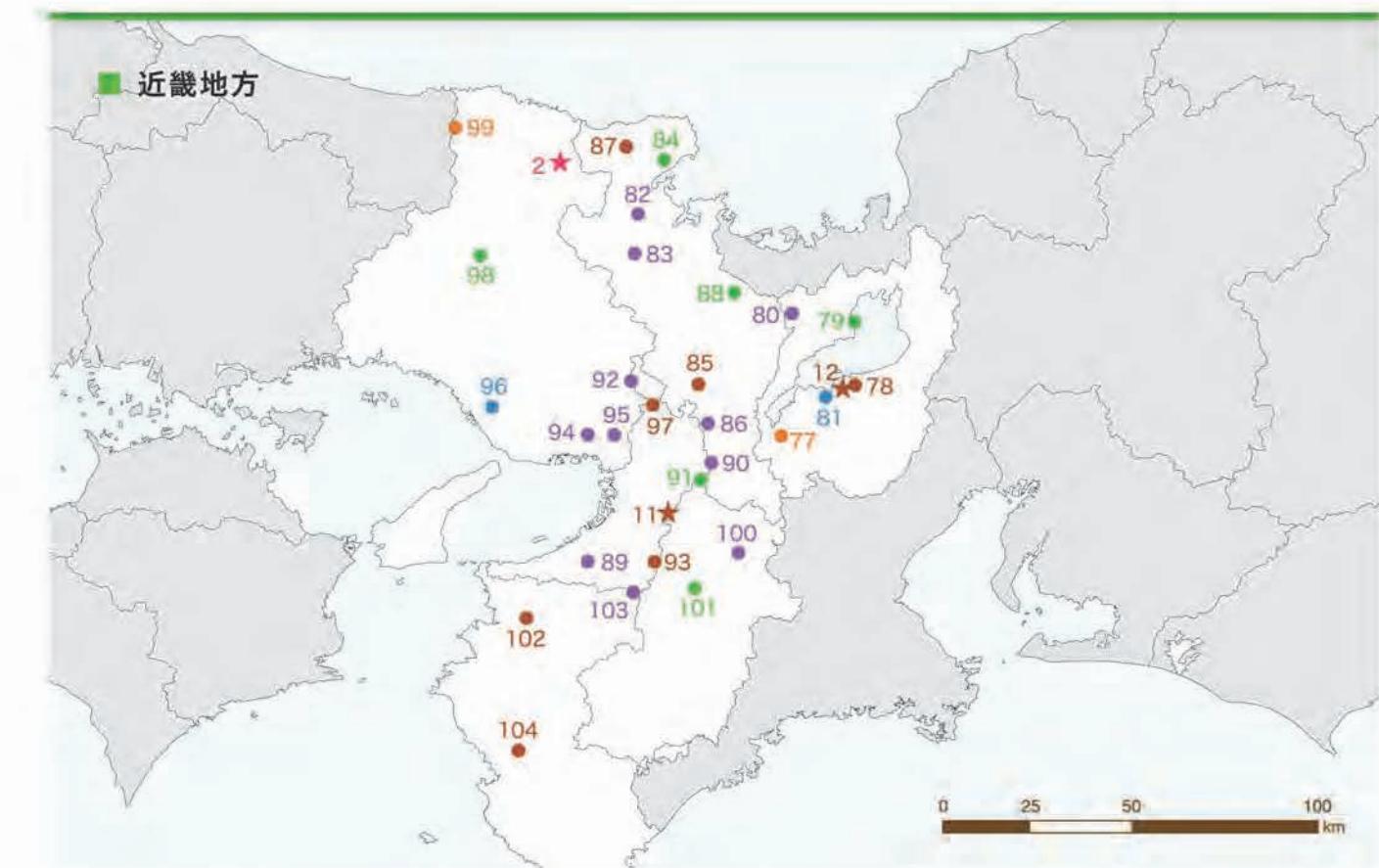


都道府県名	市町村名	地名	番号	取組内容	中心的な活動主体	方策・ツール
茨城県	土浦市	宍塙大池周辺	32	活動団体が多様な主体と協働し都市近郊の里山を総合的に保全・活用	NPO・企業等	②-a
	桜川市	富士権現山山麓	33	鎮守の森を守るために、周辺の里地里山の保全と文化継承の活動	NPO・企業等	③-a
栃木県	宇都宮市	西鬼怒川	34	グラウンドワークの仕組みによる農村の生態系の保全と環境教育	地元集落等	⑤-a
	茂木町	鎌倉山	35	堆肥化原料に里山の下刈り、落葉を収集し、土壤回復、減農薬に貢献	地元集落等	①-c
群馬県	川場村	生品・立岩地区	36	世田谷区との交流事業による多彩なプログラムを森林整備に活用	連携組織	④-c
	みなかみ町	上ノ原「入会の森」★	10	上下流連携による茅場の再生・管理・利用を進め、「現代版入会」の仕組みづくり	NPO・企業等	⑤-b
埼玉県	所沢市	三富新田	37	伝統的畑作農業によるモザイク的土地利用と循環型資源利用の継承	地元集落等	⑥-a
	飯能市	天冕山・多峯主山	38	開発中止の用地をNPO主導で環境回復、関係企業・行政も協力	NPO・企業等	③-e
千葉県	ときがわ町	里山文化園	39	町が住民協力の下、保全目的で「里山文化園」を指定し野外博物館へ	NPO・企業等	⑤-a
	寄居町	浦高百年の森	40	高校同窓会が土地を借りて多様な森林を整備、環境教育にも活用	NPO・企業等	⑥-b
千葉県	千葉市	下大和田谷津	41	谷津田保全に古代米栽培で参加を募りメダカなどの生息場を維持	NPO・企業等	②-a
	船橋市	船橋市北部地区	42	NPOが森林所有者と施業の委託契約をし、整備を進める	NPO・企業等	⑤-b
東京都	白井市・印西市	谷田・武西の谷津	43	里地里山のあるニュータウンを自然共生を考える住環境モデルに	連携組織	③-a
	多古町	桜宮自然公園	44	産廃問題を機に地権者同士で里山の自然を後世に伝える公園づくり	地元集落等	④-c
神奈川県	立川市	国営昭和記念公園「こもれびの里」	45	行政と協働で整備した公園内の里地里山エリアで生活行事などを継承	連携組織	③-a
	町田市	國師小野路歴史環境保全地域と隣接地	46	地元農業者が都の指定地を管理し、環境保全型農業の技術指導	地元集落等	⑤-a
神奈川県	武蔵村山市	都立野山北・六道山公園	47	民有地を含む広大な都立公園で指定管理者が多様な関係者間を調整	NPO・企業等	⑤-b
	あきる野市	横沢入里山保全地域	48	地域住民が行政の委託により里地里山管理と環境学習指導	連携組織	⑥-b
新潟県	横浜市	奈良川源流域の谷戸・樹林地	49	里地里山の自然資源を活用した公園の管理、農作業支援などを通じ源流域の生物多様性保全	NPO・企業等	②-a
	川崎市	生田緑地	50	市街地の中の里山の自然を行政と市民の協働で保全・活用	NPO・企業等	⑤-b
新潟県	相模原市	藤野町佐野川の里山	51	大学、専門家などの協力で都市交流を進め、地域産業で里山保全	地元集落等	⑤-b
	秦野市	秦野地域の里地里山	52	里山ボランティアを募集し養成研修、参加しやすさを工夫	NPO・企業等	⑥-b
新潟県	新潟市	にいつ丘陵	53	市民参加の里山づくりにより山林所有者の保全再生意識の向上を図る	行政	④-a
	柏崎市	柏崎・夢の森公園	54	里山復元をテーマとする公園を開設、市民と協働で多様な活動	行政	⑤-a
新潟県	十日町市・津南町	越後妻有地域 ★	5	大地の芸術祭開催によるアート作品で里山景観再認識のきっかけに	連携組織	③-a
	村上市	山熊田地区	55	焼畑のカブ、しな布など里山の技術を活用した「生業の里」を設立	地元集落等	⑥-a
山梨県	佐渡市	小佐渡東部地区	56	トキの野生復帰を目指し、農地や森林整備と人々の理解促進	連携組織	③-b
	山梨市	ライオン山梨の森	57	企業が地元と提携して維持管理労力を提供、自然体験の場にも活用	NPO・企業等	⑤-b
静岡県	富士川町	平林地区	58	「ふるさと自然塾」で地元住民講師等が多彩な体験学習活動	連携組織	④-c
	磐田市	桶ヶ谷沼	59	行政、研究者、NPOが連携しベッコウトンボを指標に里山保全	連携組織	③-a
静岡県	御殿場・掛川市	遠州南部地区	60	地域の各分野の専門家集団が文化伝承と農業継続の重要性を訴え	NPO・企業等	③-b
	松崎町	石部の棚田	61	地元主導で棚田復元し、企業、大学などに参加の輪が広がる	地元集落等	①-a

中部地方



都道府県名	市町村名	地区名	番号	取組内容	中心的な活動主体	方策・ツール
富山県	富山市	呉羽丘陵 ★	7	市立動物園を中心に、人、自然、文化を結びつける新しい里山利活用	連携組織	④-b
石川県	輪島市	金蔵地区 ★	1	集落全体で棚田営農し、歴史・文化活用の交流や特産品づくり	連携組織	①-a
	羽咋市	神子原地区	62	農家出資の地産地消企業などで活性化を図り、定住促進	NPO・企業等	①-b
	能登町	春蘭の里	63	地域の有志による実行委員会で里地里山型ツーリズムを推進	連携組織	③-c
福井県	敦賀市	中池見	64	伝統的稻作の復活により水田と関わりが深い希少動植物を保全	行政	④-a
	鯖江市	河和田東部	65	集落連携で行う鳥獣害対策などにより農地や山林を保全	地元集落等	①-a
	越前市	白山・坂口地区	66	環境保全型農業、農産物ブランド化を進め、動植物調査・保全活動も	連携組織	②-b
長野県	飯田市	下栗の里	67	高標高、急峻な山肌、伝統文化や農林業を継承し、積極的に情報発信	地元集落等	①-a
	小諸市	こもろミズオオバコビオトープ	68	ミズオオバコの生育環境保全に地域固有の水田農法	NPO・企業等	⑥-a
	白馬村	青鬼	69	集落農家が稻作を継ぎ、伝統的な用水路や畑田を継承することで農村景観を保全	地元集落等	③-a
	信濃町	信濃町癒しの森	70	森の癒し効果に着目し、都市住民向けのプログラムを官民共同体制で展開	行政	③-b
岐阜県	恵那市	富田地区	71	農地と景観保全に向け、米卸事業者との協働により農業体験・研修の場に	地元集落等	⑤-b
愛知県	名古屋市	東山の森	72	市民・企業・行政の協働で都市の里地里山を共有の財産として保全	連携組織	⑤-a
	瀬戸市	海上の森	73	里山保全のモデル地として、人材育成や情報発信へ向け役割分担	連携組織	④-b
	豊田市	トヨタの森	74	企業CSRの一環として自社保有の森を環境学習や調査の場に提供	NPO・企業等	④-b
三重県	名張市	赤目の里山	75	里山保全グループにより小規模分散型木質バイオマス利用を推進	NPO・企業等	①-c
	いなべ市	古田地区	76	休耕田の再生・和菓子生産を通じた農村環境保全と文化の伝承	地元集落等	①-b



都道府県名	市町村名	地区名	番号	取組内容	中心的な活動主体	方策・ツール
滋賀県	大津市	龍谷大学「龍谷の森」	77	大学所有の里山林で市民参加の保全活動、新たな利用モデルを摸索	NPO・企業等	④-a
	近江八幡市	白王・円山	78	琵琶湖の内湖「西の湖」でのヨシ産業をはじめとする文化的景観の伝承	地元集落等	⑥-a
	近江八幡市	白王地区 ★	12	黙黙対策とバイオマス利用に放棄田・荒廃樹林を整備し、牛を放牧	NPO・企業等	⑥-b
	高島市	針江地区	79	伏流水を集落全体で利用する水文化を再評価し、エコツアーに活用	地元集落等	③-a
	高島市	朽木針畑の里山	80	企業、NPOの特徴を活かし里山の手入れや体験学習、情報発信	地元集落等	⑤-b
	東近江市	河辺いきものの森	81	行政、NPOが協力し、多様な生き物が生息できる里山づくり	NPO・企業等	④-a
京都府	福知山市	毛原の棚田	82	交流事業で応援団を作るとともに府の制度により企業が森づくり活動	NPO・企業等	⑤-b
	綾部市	綾部市域の里山	83	多様な農業体験・里山体験のプログラムを整備し、ターン促進	NPO・企業等	⑤-b
	宮津市	上世屋地区	84	藤織り、ササ葺き家屋再生などを通じて技術伝承と里山管理	NPO・企業等	③-a
	亀岡市	保津地域	85	パートナーシップによる用水路管理で産業と希少種保護を両立	連携組織	⑥-a
	長岡京市	西山地区	86	古くからの筍の名産地で多様な主体が連携して竹林保全の活動	連携組織	⑤-b
	京丹後市	船木地区	87	バイオガス発電と農畜産業の連携、民間企業が発電施設を管理運営	NPO・企業等	⑥-b
	南丹市	美山町江和地区	88	荒廃した森林を住民主導で整備し、在来種の樹木で集落景観を維持	地元集落等	③-a
大阪府	岸和田市	神代山地区	89	里山荒廃防止のため市民、活動団体、企業、漁協、行政が協議会	連携組織	⑤-b
	枚方市	津田・穂谷・尊延寺地区	90	地権者、市民、行政が地区単位で連携し、里山保全・整備活動	連携組織	⑤-a
	八尾市	高安地区 ★	11	伝統的水管理法の池干し再現により、希少種生息環境を再生	NPO・企業等	⑥-a
	交野市	森地区	91	民間企業主体で府の制度も活用し伝統あるサクラの森を再生	NPO・企業等	③-a
	能勢町	三草山	92	トラスト地において、チカラの保全のためにナガシキをはじめとする落葉広葉樹林の管理を行い、里山環境を維持	NPO・企業等	⑤-b
兵庫県	河南町	弘川寺歴史と文化の森	93	地元農家の指導で炭焼き・薪の生産、販売を復活	NPO・企業等	⑥-a
	神戸市	六甲山東お多福山	94	複数の市民グループの協働によるスキ草原の再生事業	NPO・企業等	⑤-a
	西宮市	甲山グリーンエリア	95	行政、専門家、企業、NPOが連携・協働して都市近郊の農地森林保全	NPO・企業等	⑤-b
	豊岡市	豊岡盆地・円山川 ★	2	おいしく安全なお米と生きものを同時に育む「コウノトリ育む農法」を拡大、推進	連携組織	①-b
	加古川市	いなみの台地	96	散在するため池の保全活動をネットワーク化し保全の重要性を発信	連携組織	②-b
奈良県	川西市	北摺・黒川の里山	97	輪伐による薪炭材の採集、炭焼き、販売で、多様な生息空間を維持	NPO・企業等	⑥-a
	神河町	砥峰高原	98	スキ草原の景観保全のための伝統的火入れと觀光資源としての活用	地元集落等	③-a
	新温泉町	上山高原	99	地域住民をはじめ多様な主体の参画と協働によるエコミュージアム推進	NPO・企業等	④-c
	桜井市	山野草の里	100	農家・活動団体・企業・行政が連携し、产品づくりを通じて荒地復旧	NPO・企業等	⑤-b
	明日香村	稻溜畠	101	オーナー制定着後「畠田ルネッサンス」として共生の新しい文化発信	地元集落等	③-a
和歌山县	海南市	孟子里山公園	102	耕作放棄農地をビオトープ化し、無農薬米・ソバを栽培、販売	NPO・企業等	⑥-a
	橋本市	芋谷川流域の畠	103	活動チームが畠の耕作放棄地を再生、新旧住民交流の場ともなる	NPO・企業等	⑤-b
	田辺市	田辺の硬葉樹林	104	硬葉樹二次林における、炭焼き技術の継承	地元集落等	⑥-a

■中国四国地方



■九州沖縄地方



都道府県名	市町村名	地名	番号	概要内容	中心的な活動主体	方策ツール
鳥取県	鳥取市	国府町上地地区	105	棚田用水路保全、酒米づくりに定期的にボランティアが参加し、交流	NPO・企業等	①-a
	日南町	福栄地区	106	サクラソウ自生地を集落で再生し、都市との交流の資源にも活用	地元集落等	②-a
	江府町	大山鏡ヶ成	107	行政と地元団体の協力により、管理作業や調査を実施し、動植物の保全とエコツーリズムを展開	連携組織	③-a
島根県	大田市	三瓶山(東の原)	108	草原環境維持を通じた、ウスイロヒヨウモンモドキの生息環境保全・管理	連携組織	④-a
	奥出雲町	奥出雲	109	砂鉄と木炭による「たたら製鉄」の遺構と伝統技術継承の取組み	NPO・企業等	⑤-a
岡山県	西ノ島町	隱岐・西ノ島	110	「牧畑」の伝統を引き継ぎ、肉用牛馬の放牧と畜産振興を進める	地元集落等	⑥-a
	久米南町	北庄の棚田	111	伝統的水利技術利用の棚田の米をブランド化し、オーナーにも販売	地元集落等	⑦-a
	美咲町	大井和西棚田	112	棚田を活かした農産物のブランド化や地域活性化に官民挙げて取り組み、棚田を保全	行政	⑧-a
広島県	三原市	世羅台地周辺	113	ヒヨウモンモドキの生息地地権者と覚書を交換、住民参加で保全活動	NPO・企業等	⑨-a
	庄原市	ハイヅカ湖地域	114	多様な主体の参加により、水源地域の生息環境保全と地域活性化	地元集落等	⑩-a
	東広島市	西条地区	115	地元酒造協会の基金を運用し、市民や大学の連携で里山保全活動	連携組織	⑪-a
山口県	世羅町	伊尾・小谷地区	116	希少種保護のための営農法(品種切替含む)に地元主導で取り組む	地元集落等	⑫-a
	美祢市	秋吉台地域	117	石灰岩地帯の体験農園で、伝統的なドリーネ耕作を試行	連携組織	⑬-a
	上関町	祝島・石垣の棚田	118	島の特性を活かした第一次産業の継承・発展、「放牧養豚」の取組も	地元集落等	⑭-a
徳島県	上勝町	櫻原の棚田	119	オーナー制度等の外部交流を通して棚田景観を保全	地元集落等	⑮-a
	海陽町	北田地区★	6	中学校の総合学習でのビオトープ整備・運営に多様な主体が協力	連携組織	⑯-a
香川県	小豆島町	中山千枚田	120	耕作放棄田を水利組合が手入れして棚田景観を保全、伝統芸能も継承	地元集落等	⑰-a
	綾川町	粉所の里山	121	里山オーナー制度に参加した借主らが里山保全の自立的活動	NPO・企業等	⑱-a
愛媛県	今治市	朝倉南地区	122	公民館中心に、歴史的な風土から地域の環境保護意識を学ぶ	行政	⑲-a
	宇和島市	遊子水荷浦の段畑	123	地元住民による段畑の景観保全のための団体設立と、ジャガイモ栽培を中心とした都市農村交流事業	地元集落等	⑳-a
	内子町	石曽地区	124	むら並み博物館と称し、生活風景を保全しながら石積み技術等を継承	地元集落等	㉑-a
高知県	馬路村	馬路村	125	特産品であるゆずを活用して特産品を開発し、村そのものをブランド化	NPO・企業等	㉒-a
	梼原町	梼原	126	持続可能な森林利用を目指してFSC認証を取得し、原木・加工・住宅までの一貫システムを構築	行政	㉓-a
	四万十町	四万十川流域★	9	川や自然環境に負担をかけないモノづくりで地域の生業を再生	地元集落等	㉔-a

都道府県名	市町村名	地名	番号	概要内容	中心的な活動主体	方策ツール
福岡県	北九州市	本城特別綠地保全地区	127	定期的なボランティアの参加で竹林伐採、竹の利用法も研究し実用化	連携組織	㉕-a
	福岡市	鴻ノ巣山特別綠地保全地区	128	都市内に残された里山で落葉広葉樹林の回復により景観保全	NPO・企業等	㉖-a
佐賀県	八女市	笠原地区	129	大学、活動団体の支援により、人工林の林種転換等で里山景観を回復	NPO・企業等	㉗-a
	唐津市	蕨野の棚田	130	伝統的な「手間講」に加え、交流による棚田保全支援の仕組み整備	地元集落等	㉘-a
長崎県	小城市	江里山の棚田	131	地の利活かし減農業で米作り、棚田景観で都市との交流も	地元集落等	㉙-a
	対馬市	舟志の森★	4	持続可能な林業経営と野生生物の保護を目指し、企業、地元集落が協働	連携組織	㉚-a
熊本県	対馬市	千岳崎山	132	集落行事である野焼きを復活、地域固有種などの生息環境も保全	地元集落等	㉛-a
	阿蘇市、小国町、高森町、南小国町、産山村、西原村、南阿蘇村	阿蘇草原地域	133	野焼き、放牧、採草維持のため支援ボランティアが活躍	連携組織	㉜-b
山口県	山都町	白糸台地の棚田群	134	棚田オーナー制度を中心として都市と農村が深く交流することにより地域を活性化	地元集落等	㉝-a
	氷川町	立神峠・里地公園	135	住民が里地里山の自然資源を活用した公園の維持管理に参加、公園を活用し総合学習を実施	NPO・企業等	㉞-c
大分県	豊後大野市	井上地区	136	歴史ある農業水利施設を活用した農業生産の継続と農村文化の保全活用	地元集落等	㉟-a
	九重町	飯田高原	137	地元行政、企業、農家、NPOが自然学校を軸に協力して里山保全	NPO・企業等	㉟-b
宮崎県	串間市	都井岬	138	伝統的に行われてきた野焼きや放牧によって草原を維持することで、草原の景観や生き物を保全	地元集落等	㉟-c
	綾町	綾の照葉樹林	139	自然林回復の手法を取り入れた管理・復元、多様な主体による協定締結	行政	㉟-d
鹿児島県	美郷町	宇納間地区	140	伝統的な里山利用である木炭生産の継続による里山景観の維持	地元集落等	㉟-e
	薩摩川内市	薩摩川内地域の竹林★	3	苟農家、竹チップ工場、製紙工場など竹を軸にした産業連携を形成	NPO・企業等	㉟-f
沖縄県	姶良市	漆の里山	141	里山自然学校、農業体験などを通じ放棄地を減らす地元農家を支援	NPO・企業等	㉟-g
	大宜味村	喜如嘉地区	142	後背林からの多様な自然資源を利用し、染織などの伝統工芸を継承	地元集落等	㉟-h
沖縄県	大宜味村	椿山	143	自然を活かした地域づくりを目指す活動団体が農村と都市交流を通じツバキ類を保全	地元集落等	㉟-i
	与那国町	東崎	144	伝統的に行われてきた与那国馬の放牧によって草原の環境・景観を維持	地元集落等	㉟-j

第3章 ホームページ「里なび」の紹介



ホームページ「里なび」の掲載情報と利用方法

環境省は里地里山の保全活動の担い手育成を支援することを目的としてホームページ「里なび」(<http://www.satonavi.go.jp/>)を管理・運営しています。里なびは活動場所や専門家の情報、保全・活用の手法・事例の二つから構成されます。

■ 活動場所及び専門家に関する情報

活動場所及び専門家に関する情報などを掲載しています。

・活動場所

参加を受け付けている保全活動団体の情報を掲載しています。団体の概要、活動の内容や連絡先などを知ることができます。

・専門家

里地里山の保全活用の計画に関するアドバイスや技術指導などをする専門家を検索することができます。各専門家の専門分野や連絡方法などを知ることができます。

・活動レポート

各地で開催されたシンポジウムや研修会の報告を見ることができます。

ここから目的に合った項目を選んで下さい

これまでの活動の記録を見ることができます

活動場所を検索することができます

専門家を検索することができます

活動場所の登録を申請することができます

事例・文献を検索・閲覧することができます(次頁参照)

ここに各コンテンツの内容が表示されます

里地里山とは
里なびとは
活動レポート
里なび研修会
里地里山へ向けた里地里山の保全・活用手法
里地里山の保全活用
事例・文献データベース
リンク

お知らせ
新たに「里地里山保全活用 菓例・文献データベース」ができました New
国内外における里地里山の保全活用の取組事例及び参考文献を検索できるシステムを新設しました。保全活用を充実させたい方やこれから始めたいと思っている方は是非ご活用ください。詳細はデータベースアイコンをクリックしてください。

これまでのお知らせ

主催：環境省自然環境局
事務局：(財)水と緑の惑星保全機構 里地ネットワーク

里地里山は、人が自然に働きかけて生まれた空間です。人々は、里地里山から薪などのエネルギーや建材などの素材、食料などを手に入れ、同時にたくさんの生き物が生息・生育出来る共生の場を守ってきました。日本人の原風景を保つこと、心の豊かさを育んだ里地里山が、全国各地で荒れています。それに伴って、日本の生物多様性が損なわれ、土砂災害や鳥獣被害が起きています。

里地里山保全活用データベース

■ データベースの構成

事例データベース

事例データベースでは全国の活動事例を掲載しています。全国の事例から、アプローチ、手法、対象地域、地域区分、取組対象、生態系タイプ、活動主体、フリーワードから条件に合った事例を探すことができます。

全国の事例

条件に合った取組事例

検索条件

この冊子の4~5頁に掲載した「取組の目的」及び「取組の進め方」並びに「取組の手法」の他に、一定の条件に合う事例を検索することができます。

- 対象地域(都道府県・市町村)
- 地域区分(例:都市周辺、中山間地)
- 取組対象(例:樹林地、田・畠、草地)
- 生態系タイプ(例:ミズナラ林、アカマツ林)
- 活動主体(例:地元集落等、NPO・企業等)
- フリーワード

文献データベース

里地里山の保全活用の計画に関連した文献を検索することができます。
文献のタイトル、著者、出版年、概要等を知ることができます。

あなたの地域の取組を掲載しませんか!

よりよい事例をさらにご紹介するため、取組事例の追加登録を受け付けています。里地里山の保全活用の取組を実施されていて、全国的な活動の推進のために皆さんのご経験を役立てたいという場合は、「里なび」ウェブサイト内・事例データベースのホームページ(<http://www.satonavi.go.jp/>)より申し込みフォームをダウンロードし、内容をご記入のうえ、お問い合わせ下さい。(詳しくはホームページをご参照下さい)